
IV 医学部看護学科

1 教育・研究の理念・目標等

1. 教育・研究の理念と目標

近年の医療・福祉を取り巻く環境の変化に対応し、多様な社会的要請に応えるため、21世紀の医療に向けて、豊かな感性と人間性を備え、日々進歩する知識や技術を修得・発展させる能力や、地域に即した保健医療活動の中心的役割を果たすことのできる資質の高い看護職を育成することを目的に以下のディプロマポリシーを設定している。

- ① 人権と生命の尊厳に対する敬愛、豊かな感性と倫理観の修得
- ② 総合的・全人的に人間を理解する能力
- ③ 自主性と創造力を持ち、主体的に判断・実践ができる問題解決能力
- ④ 看護専門職として、科学的知識・技術を修得し、それを探求していくことができる能力
- ⑤ 看護の役割を認識し、ケアチームの一員として活躍できる能力
- ⑥ 国際的な視野と地域医療への貢献を視野に入れた看護を発展できる能力

2. 教育・研究の活性化と充実の経過

急速な少子・高齢化による人口構成の変化、疾病構造の変化、また人々の健康への関心の高まりなどにより、医療を取り巻く社会環境は著しく変貌してきている。慢性疾患や老化による障害を抱えて生活する人々が増加するにつれ、療養生活の質、生命の尊厳の本質が改めて問い直されるようになった。このように拡大し複雑化する社会的ニーズに応じていける看護者を育成するには、豊かな感性と深い倫理観に裏付けられた人間性、専門的知識・技術と実践力を備え、問題解決能力、また、国際的な視野と地域医療への貢献を視野に入れた看護を発展できる能力を身につけることが課題となる。

このため1年次生から医療・看護への関心を高めるため、初期体験実習や総合科目(医療と生命)、また、医学概論は医学科学生との合同授業を開講している。また、専門教育の基盤となる教養教育は1,2年次に全学部生を対象とした全学共通教育を受講する。

問題解決能力、主体的に学習する能力育成のために、少人数によるグループワークを積極的に取り入れている。また、保健師助産師看護師学校養成所指定規則等の一部改定に伴い、平成21年度からカリキュラムを改正し、よりいっそう系統的な教育を行えるようにしただけでなく、実習での学びの統合を図るための統合実習を取り入れた。

3. 教育・研究の将来構想

(1) 基本理念

わが国における医療・福祉の状況は、近年大きく変化している。医学の進歩と医学を取り巻く諸科学の発展、さらに急速な高齢化などの社会環境の変化に伴い、医療の世界も多様化し、治療とともに援助サービスが重視されるようになってきた。医療における看護の役割は、今後さらに拡大・複雑化していくことは明らかであり、豊かな感性と人間性を備えた資質の高い看護職の育成が不可欠となる。

これらの社会的要請に応えるため、日々進歩する医療の知識・技術に対応し、さらに発展させる能力を持った人材、地域の実情に即したきめ細やかな保健医療活動の中心的役割を果たせる人材を養成するとともに、看護教育及び研究・研修の拠点となり、生涯学習に貢献することのできる、社会に開かれた看護学科を目指すことを基本理念とする。

(2) 教育体制

現代の医療は、治療水準の向上とともに、あらゆる健康レベルの人々を対象とした、保健・医療・福祉が連携した良質できめ細やかな援助サービスが要請される。医療における看護の責任は今後ますます重く、社会の要請に応えるためにディプロマポリシーを踏まえた上で、将来的に次のような内容を担える人材の育成と学問的基盤の確立を目標とする。

- ① 全人的医療を担い得る豊かな感性と人間性を備えた人材
- ② 高度医療の一環を担い得る資質の高い人材
- ③ 保健・医療活動に指導的役割を果たせる人材
- ④ 看護学における学問的基盤を確立できる人材
- ⑤ 広い視野を持ち、国内外で活躍できる人材

医学部医学科および医学部附属病院との緊密な協力体制を築き、養護教諭1種免許取得のための教職課程では総合大学としてのメリットを十分に生かした教育を行っていく。「健康」を視座にすえた統合カリキュラムで育った問題解決能力や判断能力、応用能力のある人材の育成により、地域で保健医療に係わる人々とともにケアチームを作り、生涯学習を続けていける体制整備を目指す。

(3) 研究体制

看護学の研究は、関連諸科学との連携、特に保健・医療分野との共同研究は必須である。臨床、地域における看護職との研究は看護の研究の本質的意義を有するものであり、各講座、分野の特色の中で推進していく。看護の対象や役割の拡大により、健康支援や生活への援助から、教育・福祉・経済・情報などと連携していく必要性が高まっている。総合大学のメリットを活かし、学内外において関連する学問分野、他の専門職との連携を密にすることで学際的かつ効率的な共同研究を推進していく。また、大学院修士課程(看護学専攻)ではより高い専門性を追及した教育・研究の充実を図っている。

2 教育活動

1. 学生の受入れ

(1) 学生募集の方法

- ① 学生募集要項及び入学者選抜に関する要項については、学務部から全学一括で県下高等学校を中心に郵送配布するとともに、希望者に対しては学務係から直接又は郵送で配布している。
- ② 看護学科紹介パンフレット「岐阜大学医学部看護学科案内」を作成し、大学紹介(オープンキャンパス、プチ・オープンキャンパス)を参加者に配布している。また、パンフレット希望者には郵送配布の対応を行っている。
- ③ オープンキャンパス、プチ・オープンキャンパスにおいて、看護学科長による看護学科の概要説明並びに各講座が企画する模擬実習等を体験するだけでなく、在学生による相談会や医学部看護学科教務厚生委員による進学相談を行っている。参加者からのアンケート内容は、教務厚生委員会における次年度以降の計画立案の参考としている。
- ④ 看護学科全教員が6～8月にかけて岐阜県・愛知県を中心に高等学校を訪問し、パンフレットや募集要項を手渡すだけでなく、看護学科の紹介及び進路指導担当の教諭と情報交換を実施している。
- ⑤ 私塾主催の入試説明会への教員派遣や、高等学校への「出前講義」、看護学科への高校訪問の受け入れについて積極的に取り組んでいる。

(2) 入学者選抜の方法と方針

前期日程および後期日程の一般入試に加え、センター試験を課さない推薦入学Ⅰ特別入試と社会人特別入試を設定している。また3年次編入学試験も実施している。入学試験の定員数は、それぞれ次表のように定めている。

試験	募集人員
推薦入学Ⅰ特別入試	10
社会人特別入試	3
一般入試(前期日程)	47
一般入試(後期日程)	20
3年次編入学試験	10

看護学科では、次のアドミッションポリシーを定めて公開している。

【教育目的】

看護学科は、看護学をはじめ保健・医療・福祉の各分野に貢献できる人間性豊かで倫理観に富む資質の高い看護の専門職を養成するとともに、看護学の教育研究の推進も目指します。

【求める学生像】

人を愛し生命を尊び、全ての人々の健康の向上に寄与する看護職を育成するために以下のような学生を求めています。

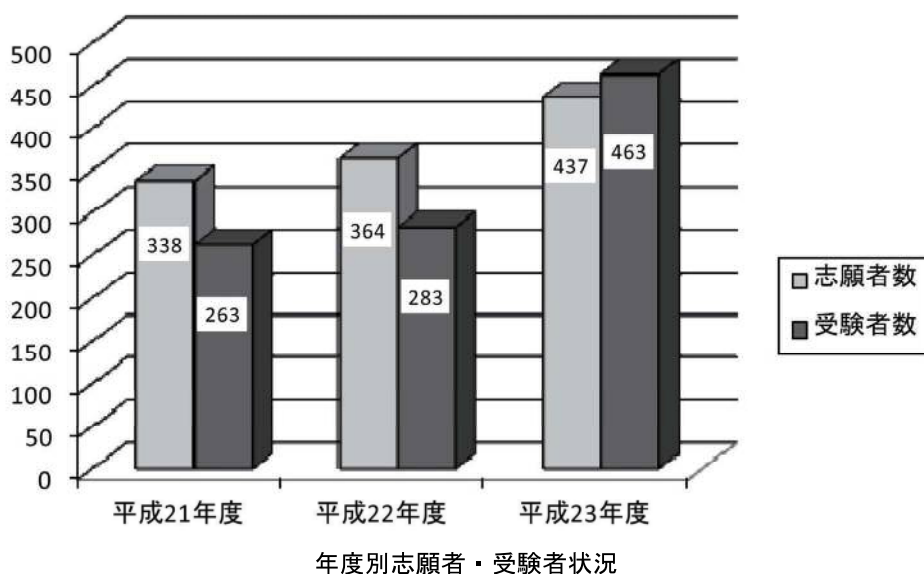
- ① 看護への関心があり、看護学の修得に必要、かつ、十分な基礎的学力を有すること。
- ② 様々な現象に対して、あらゆる角度から観て考え、真実を知ろうという科学的探求心に富み、自己学習意欲が旺盛であること。
- ③ 他者の意見を傾聴し、その気持ちを理解できるように努め、自己の意見を表現できる能力を持っていること。
- ④ 自己の役割を認識し、責任感を持っていること。
- ⑤ 自己の心身の健康に留意し行動できる力を持っていること。

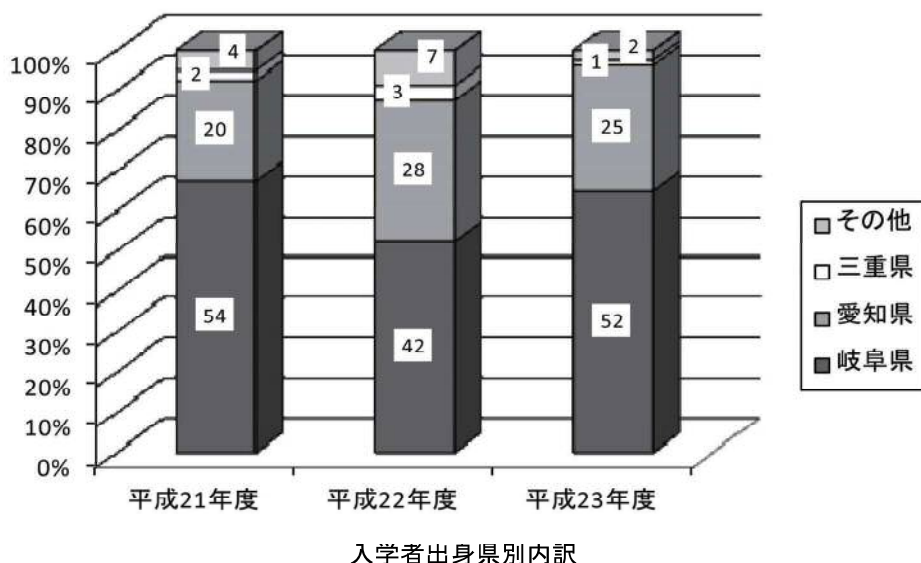
前期日程は基礎的学力により合否判定を行い、後期日程では基礎学力に加えて面接による人物判定を取り入れて合否判定を行っている。推薦入学Ⅰ特別入試と社会人特別入試では小論文による英語読解力と国語力および面接による人物判定を取り入れている。また、3年次編入学試験では国家試験合格レベルの医学・看護に関する基礎専門能力と面接による人物評価によって合否判定を行っている。

(3) 学生の受入れ状況

学生定員充足状況：平成21年度から23年度までの3年間の入学(志願者・入学者)に関する状況は次表のとおりである。

区分		志願者数	受験者数	入学者	県別内訳			
					岐阜県	愛知県	三重県	その他
平成21年度	男	18	18	2	1	0	1	0
	女	320	245	79	53	20	1	4
	計	338	263	81	54	20	2	4
平成22年度	男	29	24	5	3	2	0	0
	女	335	259	75	39	26	3	7
	計	364	283	80	42	28	3	7
平成23年度	男	32	26	5	2	1	1	0
	女	405	335	75	50	24	0	2
	計	437	463	80	52	25	1	2





(4) 編入学制度と実態

看護学科では、すでに看護に関する学科あるいは課程において学習してきた学生を対象に、編入学(第3年次)による学生の受け入れ制度を設けている。

平成21年度～平成23年度の編入学(志願者・入学者)に関する状況は次表のとおりである。平成23年度は再募集を行ったが、看護学科の求める条件に該当する受験者は無く、入学者は0人であった。

区分		志願者数	受験者数	入学者
平成21年度	男	4	4	1
	女	46	32	8
	計	50	36	9
平成22年度	男	4	3	0
	女	30	21	10
	計	34	24	10
平成23年度	男	3	2	0
	女	20	17	0
	計	23	19	0

(5) 研究生の受入れと実態

学則において研究生の受け入れ制度を設けているが、平成21～23年度に研究生の受け入れは無かった。

2. カリキュラム

看護職の基礎的能力と、科学的思考に裏づけられた看護実践能力、保健・医療・福祉全般にわたる広い見識、そして幅広い教養と豊かな人間性を養うことを目的として、教養教育と専門教育(基礎科目と専門科目)を開講している。

(1) カリキュラムの特徴

- ① 教養科目は、全学共通教育科目として開講
個別科目(人文科学系, 社会科学系, 自然科学系, スポーツ・健康科学系), 総合科目, 外国語科目や自由選択科目が開講され, 必要単位を考慮しながら, これらの科目から自分の学びたい科目を選択する。
- ② 地域科学部の科目の受講
基礎科目には看護独自の科目の他に, 地域科学部が開講する科目があり, 他学部の学生と一緒に学ぶ。
- ③ 医学部との合同講義(医学概論)

全人的医療や医療職種の役割などに関して学ぶ。

- ④ 実習や体験に基づいた学習の重視
専門科目は、講義だけでなく体験を踏まえた学習を実施する。

(2) カリキュラムの構築

- ① 看護実践能力の育成を目指してカリキュラムの構築
 - ・看護学士課程教育は、文部科学省の見解に依れば、看護の実務家の育成が目的であると述べられている。看護学教育内容ガイドラインとして2004年に「看護実践能力育成に向けた大学卒業時の到達目標」が示された。これには看護実践能力の5つの構成要素・19項目・76細項目に準拠した項目が上げられている。岐阜大学医学部看護学科では、示された看護実践能力が修得できるように教育内容を各講座間で有機的に関連させながら、看護専門教育を4年一貫教育として実施するようにカリキュラムを構築している。
 - ・1年次生から4年次生までの間に、看護学実習（初期体験実習、基礎看護学実習、急性期看護学実習、慢性期看護学実習、老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ、精神看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、在宅看護学実習、地域看護学実習、統合実習）を通じて看護の計画的な展開能力、特定の健康問題をもつ対象への実践能力、ケアチームの一員として活躍できる基礎的な能力が修得できるように実習を配置している。
- ② 国家試験受験資格が取得できるカリキュラム構築
1年次生から4年次生までの間に、共通教育及び専門教育の各教科目を学習し、4年次学年末に実施される看護師国家試験・保健師国家試験の受験要件を満たす十分な科目と単位数に配慮したカリキュラムを構築している。また助産に関しては、選択科目として助産師国家試験の受験要件を満たすカリキュラムを構築している。
- ③ テュートリアル教育（少人数によるグループワーク）を取れ入れたカリキュラムを構築
入学当初から社会や医療の変化に伴い生起する多様で複雑な健康問題に対して看護職として自ら課題を探究、その課題の解決に向けて学習できる能力の獲得を目指してテュートリアル教育を取り入れたカリキュラム構築をしている。
- ④ 看護学専門科目の一部として発展科目を位置づけ、幅広い視野をもった看護実践能力育成に向けて学習する機会を設けること、さらに、科学的思考の修得と将来への発展を期待して、研究方法の講義及び卒業研究の実際を通して、基礎的能力の修得を行うように位置づけている。

(3) 課題と展望

平成23年3月11日に文部科学省の「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会」から最終報告が出された。その中で「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標—教育内容と学習成果—」が示されている。看護学科では、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正に伴う平成24年度入学生からのカリキュラム変更に向け、先の最終報告にあげられた項目と看護学科での教育内容との整合性を検証してきた。この「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標—教育内容と学習成果—」を看護学科で卒業時まで育成する専門的能力と位置づけ、教育内容、教授方法についてさらに検討を加え、より良い教育を実践できるようにしていく必要がある。平成24年度からの新カリキュラムでは、卒業に必要な単位数を133単位から127単位に変更し、学生の自己学習に使用できる時間数を確保することを試みた。また、今までの助産師教育課程の選択制（上限8名）に加え、保健師教育課程も選択制（上限20名）としたことで、保健師として活躍したい学生に焦点をあてた、より効果的な教育・実習内容にできるようにした。今後、新カリキュラムでの教育効果について検証していく必要がある。

また、平成22年度からは養護教諭1種免許取得が可能な教職課程を設置し、平成22年度は4名、平成23年度は5名の学生が教職科目と養護に関する科目を履修している。今後は、4年次に行われる養護実習等の実習に関する教育環境を全学の教職課程専門委員会と連携しながら整備していく必要がある。

3. 教育方針

(1) 教育改革

看護学科では、平成21年度にカリキュラム改正を行った。カリキュラム改正にあたっては、指定規則の変更内容と平成18年度からのカリキュラムの問題点を踏まえ以下の改正を行った。①基礎科目を見直し、平成18年度カリキュラムの20科目から6科目に精選した。また、養護教諭1種免許取得のために基礎情報学演習（1単位）を基礎情報学（2単位）とした。②専門科目の見直しを行い、従来は講座単位で設定され

ていた選択科目の最低履修単位数を撤廃し、選択必修の科目以外は、選択科目履修の自由度を高めた。③健康の保持増進・治療・回復において様々な役割・機能を担っている医療関係部門(者)の活動の実際を把握し、チーム医療及び看護師として他職種との連携を図るための基礎能力を養う目的で、3年次後学期に統合実習を導入した。

(2) 全学共通教育

大学では、専門について深く学ぶとともに、教養を学ぶことが必要である。この目的を達成するため、4年一貫教育体制のもとに、教養教育と専門教育を並行して行っている。教養科目については、全学体制のもとに全学共通教育として進められている。

○全学共通教育の最低修得単位数

科目区分		卒業要件修得単位数	
個別科目		14 単位以上	人文科学系 6 単位以上
			社会科学系 4 単位以上
			自然科学系 2 単位以上
			スポーツ・健康科学系 2 単位以上
総合科目		4 単位以上	
外国語科目	既修外国語系 (必修)	4 単位以上	
	未修外国語系 (必修)	2 単位以上	
	既修外国語系 (選択必修)	2 単位以上	
	未修外国語系 (選択必修)		
自由選択科目		2 単位以上	
学部開講	教養セミナー	2 単位	
合計		30 単位以上	

○全学共通教育の開講時間枠

1 年次前学期

曜日 時限	1	2	3	4	5
月	◎	◎	◎	◎	◎
火	◎	◎	◎	◎	◎
水	◎	◎			
木					
金					

1 年次後学期

曜日 時限	1	2	3	4	5
月	◎	◎	◎	◎	◎
火	◎	◎	◎	◎	◎
水	◎	◎			
木					
金					

◎ : 全学共通教育の開講時間枠
空白 : 専門教育の開講枠

(3) 専門教育

① テュートリアル教育 (少人数グループワーク)

従来テュートリアル教育として行ってきた専門教育は、看護学教育独特のカリキュラム特徴と時間割上の過密性、および科目ごとの教員の人数上の問題があり、医学科で実施している本来のテュートリアル教育の方法をとることが難しかった。現在は、テュートリアル教育としていた科目では5~10人の少人数グループで課題に取り組む少人数グループワークの形をとっている。グループワークでは教室に加えて9つのセミナー室を使用して行い、セミナー室では課題に関連した専門書や統計資料を配置してグループワーク中に自由に閲覧可能とした。また、課題に取り組むことや取り組み結果をまとめるために、コンピュータ、プリンタ、スキャナーを各セミナー室に配置して学生が自由に使用できるようにしている。平成23年度は古くて動作が遅くなったパソコンを入れ替え、学生が多用しているマイクロソフトワードをセミナー室の全てのパソコンにインストールするなど、学生のニーズにも臨機応変に対応している。平成23年度にはさらに4部屋のセミナー室を設置している。

② 看護学臨地実習

必修科目である臨地実習(25単位)は、卒業要件単位数(133単位以上)のうち20%弱を占める非常に重要な専門教育科目であり、看護師・保健師養成には欠かせないものである。そのため、学生の基礎科目や専門科目の学習進度に合わせ、1年次の初期体験実習による動機付け、2年生の基礎実習における患

者のニーズ把握と看護過程の理解，3年次から4年次にかけての分野別実習における看護過程の展開の学習というように構成してきた。臨地実習に関わる委員会として実習委員会があり，次世代の看護を担う能力を持った人材を育成するために以下の活動を行ってきた。

- ・ 臨地実習施設との調整と臨地実習指導者会議の企画および開催
- ・ 年度ごとの臨地実習計画表の作成
- ・ 臨地実習要項の作成と配布
- ・ 臨地実習ガイダンスの企画と運営
- ・ 臨地実習における病院感染対策マニュアルの改定
- ・ HB感染症と小児感染症の抗体検査と検査結果の管理
- ・ HB感染症と小児感染症ワクチン接種の勧奨
- ・ 学生を対象とした感染予防対策に関する特別講義の開催
- ・ 患者および学生の個人情報保護に関する実習記録等取り扱いマニュアルの作成
- ・ 臨地実習に伴う予算に関する検討
- ・ 在学生へのインフルエンザワクチン接種の勧奨と医学科と合同で実施する希望学生へのワクチン接種

平成21年からは，新型インフルエンザの流行により，臨地実習中のインフルエンザ発生に対する予防行動と発生時の対応の詳細についてまとめた。

地域看護学と母性看護学，助産学の実習は，受け入れ施設の固定化が難しく，施設の変更が多いことが問題点としてあげられるが，他の分野では附属病院以外の施設に関してほぼ安定してきており，施設における指導体制の安定化によって実習における学習効果を高めていくことが可能になってきた。今後，実習指導に関わる教員のさらなる指導能力の向上，実習施設との連携の充実を図ることによって，ディプロマポリシーに合った学生をより多く育成していくことが課題である。

(4) 他大学における授業科目の履修方針と状況

学則第39条の規定「教育上有益と認めるときは，他の大学又は短期大学との協議に基づき，学生に当該他大学等の授業科目を履修させることができる。」とあるが，専門科目についての実績はない。

平成22年度には，学則第41条2項の規定により，平成21年から平成22年にかけてアメリカ合衆国のノーザンケンタッキー大学に留学した学生からの申請に基づき単位認定を行った。単位認定を行った科目は救急看護と看護英文抄読の2科目で，どちらも選択の専門科目であった。

(5) 在籍，留年，休学，退学の状況

過去3年間の状況は次表のとおりである。

区 分	在 籍	留 年	休 学	退学(除籍を含む。)
平成20年度	341	6	2	3
平成21年度	338	9	7	1
平成22年度	343	25	9	0

(6) 教育施設・設備の現状

区 分	面 積	用 途	設 備
看護学科校舎1階 講義室1	134 m ²	講 義	プロジェクター，ビデオ投影装置，マイク設備，資料提示装置
看護学科校舎3階 講義室2	105 m ²	〃	プロジェクター，ビデオ投影装置，マイク設備，資料提示装置
看護学科校舎3階 講義室3	111 m ²	〃	プロジェクター，ビデオ投影装置，マイク設備，資料提示装置
看護学科校舎4階 講義室4	90 m ²	〃(学部，大学院)	プロジェクター，ビデオ投影装置，マイク設備
看護学科校舎5階 講義室5	68 m ²	〃	プロジェクター，ビデオ投影装置
総合研究棟1階 セミナー室	第1～9室 26 m ² ～47 m ²	グループワーク，初期 体験実習，自己学習	パソコン，プリンター，スクリーン， 書棚(授業用専門書)
総合研究棟5階 セミナー室	第10～13室 22 m ² ～45 m ²	グループワーク 自己学習	パソコン，プリンター

区 分	面 積	用 途	設 備
総合研究棟 3階 大学院セミナー室 1・2	2室 23㎡～24㎡	講 義	
総合研究棟 3階 大学院生研究室	2室 23㎡～24㎡	研 究	
看護学科校舎 2階 基礎看護実習室 1	258㎡	基礎看護学実習	ビデオ投影装置, マイク設備, 資料提示装置, ガス乾燥機
看護学科校舎 2階 老年在宅実習室	92㎡	老年・在宅看護学実習	バリアフリーモデルルーム
総合研究棟 2階 成人看護実習室 1	23㎡	成人看護学実習	
総合研究棟 2階 成人看護実習室 2	106㎡	成人看護学実習	ビデオ投影装置, マイク設備, 資料提示装置,
総合研究棟 2階 成人看護実習室 3	26㎡	成人看護学実習	書棚
総合研究棟 2階 基礎看護実習室 2	47㎡	基礎看護学実習	ビデオ投影装置, マイク設備, 資料提示装置
総合研究棟 3階 地域看護実習室	94㎡	地域看護学実習	
総合研究棟 3階 精神看護実習室 1	53㎡	精神看護学実習	
総合研究棟 3階 精神看護実習室 2	26㎡	精神看護学実習	
総合研究棟 3階 地域・精神看護実習室 1・2・3・4	4室 23㎡～24㎡	精神看護学実習	
総合研究棟 4階 母性・小児看護実習室 1	147㎡	母性・小児看護学実習	沐浴槽, 乾燥機
総合研究棟 4階 母性・小児看護実習室 2	26㎡	母性・小児看護学実習	保育器
総合研究棟 4階 助産学実習室	93㎡	助産学実習	沐浴槽, 分娩台
総合研究棟 4階 母性・小児看護実習室	92㎡	母性・小児看護学実習	IH キッキングヒーター, パソコン, プリンター

(7) 成績の評価, 認定の基準

成績は, 試験等の結果を総合して以下の区分で評価する。

優 (100点～80点) 合格

良 (79点～70点) 合格

可 (69点～60点) 合格

不可 (60点未満) 不合格

病気その他正当な理由により定期試験を受けられなかった者について, 願い出により追試験を受けることができる。定期試験及び追試験に不合格となった者について, 1回に限り再試験を受けることができる。

(8) 看護師等国家試験合格状況

過去3年間の合格状況は次表のとおりである。

区分		受験者	合格者	合格率	全国合格率
平成 20 年度	保健師	89	89	100.0	98.5
	助産師	4	4	100.0	99.9
	看護師	81	80	98.8	94.4
平成 21 年度	保健師	83	80	96.4	87.8
	助産師	8	5	62.5	83.2
	看護師	75	75	100.0	93.9
平成 22 年度	保健師	84	82	97.6	89.7
	助産師	4	4	100.0	98.2
	看護師	76	75	98.7	96.4

(9) 学生の就職状況

過去3年間の卒業生の就職状況は次表のとおりである。

区分	看護師	保健師	助産師	進学	その他
平成20年度	71	7	4	2	7
平成21年度	68	7	4	2	3
平成22年度	67	9	3	4	2

4. 学生生活への配慮

(1) 奨学金の種類と採択状況

過去3年間のデータは次表のとおりである。

区分	日本学生支援機構				その他の奨学金	
	第1種		きぼう21		申請者数	採用者数
	申請者数	採用者数	申請者数	採用者数		
平成20年度	18	13	16	15	0	0
平成21年度	28	20	24	24	2	2
平成22年度	15	9	22	21	1	1

(2) 授業料の免除の状況

過去3年間の状況は次表のとおりである。

区分	在籍者数	前学期			後学期		
		申請	免除		申請	免除	
			全額	半額		全額	半額
平成20年度	341	39	12	20	38	14	19
平成21年度	338	38	14	22	35	15	16
平成22年度	343	33	7	21	27	8	17

(3) 学生生活相談の体制と実態

学生の個人的な生活に関する相談については、学務係が窓口として対応している。

個人的相談については定められた担当教員が応じ、講座レベルでの指導事項などについては当該講座の教員により対応し、総合的には教務厚生委員会看護学科委員会において対応している。

(4) 課外活動の実態

看護学科で許可している学生団体は存在しないが、岐阜大学大学教育委員会の認める体育系及び文科系サークル、また岐阜大学医学部教務厚生委員会の認める医学部体育系及び文科系サークルに所属して活動する学生は少なくなく、運動系サークルではマネージャーで活躍する学生が多い。

キャンパスライフが有意義で、健全なものとなるように課外活動を行う学生数の実態は次表のとおりで学年進行とともに増加している。

区分	全学サークル	
	体育系	文化系
平成20年度	48	23
平成21年度	44	32
平成22年度	27	30

※1 各年度の4月1日付の部員数であり、新入部員数は含まない。

2 ()内は、奥穂高岳診療所クラブ部員数(外数)で、7月時点での部員数である。

3 研究活動

〔基礎看護学講座〕

(1) 基礎看護学分野

1. 研究の概要

基礎看護学分野では、看護基礎教育と看護継続教育との関連性の中で、その歴史的背景を踏まえつつ、看護学生及び看護師に必要な看護技術教育に関する研究、看護師のワークライフバランスに関する研究を行っている。また、看護の場の拡大に伴う在宅における感染管理を含む看護管理に関する研究にも取り組んでいる。更に、19世紀英国における社会の変革を Charles Dickens の *Hard Times* を中心として研究するなど、各自の研究テーマに基づいて取り組んでいる。

- 1) 占領期焦点をあてた病院管理及び看護技術教育に関する研究に取り組んでいる。
- 2) 看護基礎教育における臨床看護師との協働による看護技術教育、及び身体侵襲を伴う看護技術の教育に関する研究に取り組んでいる。
- 3) 在宅における感染管理に関する教育プログラムの効果検証と在宅ターミナルに関する教育プログラムの開発をテーマに研究に取り組んでいる。
- 4) 19世紀英国における社会の変革を Charles Dickens の *Hard Times* を中心として研究に取り組んでいる。特に労働者階級の人々の生活の視点から、さまざまな社会問題を分析する。また、Charles Dickens がこの時代の社会問題をどのように考え、どのような行動をとり、どのような改革を行うべきとしたかを研究する。
- 5) 基礎看護技術の教育方法の工夫として、実験を取り入れた教育方法に関する研究に取り組んでいる。また、循環病態学分野の専門家とともに、減塩が生体に及ぼす影響について動物実験を行っている。
- 6) 看護師のワークライフバランスが実現するための課題、および施策についての研究に取り組んでいる。

2. 名簿

教授：	滝内隆子	Takako Takiuti
教授：	小松妙子	Taeko Komatsu
准教授：	瀬戸崎康子	Yasuko Setozaki
助教：	岡本千尋	Chihiro Okamoto
助教：	渡邊郁子	Ikuko Watanabe

3. 研究成果の発表

著書（和文）

なし

著書（欧文）

なし

総説（和文）

- 1) 滝内隆子, 小松妙子, 塚原節子, 岡本千尋, 中島美奈子, 中野尚見, 伊藤友美, 高岡光江. 臨床看護師との協働による看護技術教育の評価, 看護教育 2011年; 52巻: 766-771.
- 2) 岡本千尋. PCI・CAG 後等の安静臥床に伴う腰痛緩和方法の検討 —1983~2009年の文献を通して—, 岐阜看護研究会誌 2011年; 3号: 49-55.
- 3) 松田好美, 箕浦とき子, 後閑容子, 滝内隆子, 玉置真理子, 額綱朋弥. 岐阜県における地域医療に貢献できる看護職の育成プログラムの開発と実践, 岐阜看護研究会誌 2011年; 3号: 121-130.

総説（欧文）

なし

原著（和文）

- 1) 小松妙子, 滝内隆子, 前田修子. 訪問看護師を対象とした「感染管理に関する基礎的技術」研修会の効果検証, 岐阜看護研究会誌 2009年; 1号: 25-32.
- 2) 前田修子, 滝内隆子, 小松妙子. 訪問看護師を対象とした「関係機関・職種と感染管理に関する連携・指導」研修会の学習内容・方法の検討—事前調査の結果から—, 岐阜看護研究会誌 2009年; 1号: 1-7.
- 3) 中野尚見, 滝内隆子, 小松妙子. プリセプターが実際に行っている役割とプリセプターの必要性—プリセ

- プーの視点から一、岐阜看護研究会誌 2009年；1号：33-37.
- 4) 前田修子, 滝内隆子, 小松妙子. 訪問看護師を対象とした「膀胱留置カテーテル挿入・管理」感染管理研修会の効果検証, 日本環境感染学会誌 2009年；26巻：417-424.
 - 5) 滝内隆子, 前田修子, 小松妙子. 訪問看護師を対象とした「感染対策に関する基礎的知識」研修会の効果検証—研修前後の修得状況を通して—, INFECTION CONTROL 2009年；18巻：94-103.
 - 6) 佐々木真紀子, 滝内隆子. 便秘の看護の実践状況と今後の課題, 秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻紀要 2009年；17巻：95-101.
 - 7) 渡邊美和, 沼田幸美, 荒井奈津子, 高城有美, 尾田 愛, 塚原節子. 中堅看護師の死後ケアへの思い, 第40回日本看護学会論文集(老年看護) 2009年：138-140.
 - 8) 澤田亜矢子, 細見由加里, 寺西徳子, 金田麻里, 神子澤梨香, 佐竹明子, 塚原節子. せん妄患者への音楽療法の有用性, 第40回日本看護学会論文集(成人看護Ⅱ) 2009年：75-77.
 - 9) 有坂千亜紀, 蟹谷美香, 塚原節子. 週2回透析患者における自己管理を継続できている要因, 第40回日本看護学会論文集(成人看護Ⅱ) 2009年：308-310.
 - 10) 蛭田美貴, 前田修子, 小松妙子, 岡本千尋, 滝内隆子. 訪問看護師を対象とした「結核・インフルエンザ」研修会の効果検証, 岐阜看護研究会誌 2010年；2号：1-8.
 - 11) 岡本千尋, 前田修子, 小松妙子, 蛭田美貴, 滝内隆子. 訪問看護師を対象とした「疥癬・MRSA」研修会の学習内容・方法の検討, 岐阜看護研究会誌 2010年；2号：9-15.
 - 12) 滝内隆子, 前田修子, 小松妙子, 蛭田美貴, 岡本千尋. 訪問看護師を対象とした「在宅中心静脈栄養」研修会の効果検証, 岐阜看護研究会誌 2010年；2号：17-23.
 - 13) 滝内隆子, 大津廣子, 足立みゆき. 占領期の看護教育指導者講習会で使用されたテキスト —一般基礎看護法に焦点をあてて—, 岐阜看護研究会誌 2010年；2号：25-32.
 - 14) 足立みゆき, 滝内隆子, 渡邊亜紀子. 看護理論を用いた基礎看護技術教育の実際, 岐阜看護研究会誌 2010年；2号：87-92.
 - 15) 渡邊亜紀子, 滝内隆子, 足立みゆき. 経鼻経管栄養モデル作製の効果, 岐阜看護研究会誌 2010年；2号：93-97.
 - 16) 滝内隆子, 小松妙子, 蛭田美貴, 前田修子. 訪問看護師を対象とした持続携帯式腹膜透析に関する研修会の効果検証, 透析ケア 2010年；16巻：700-708.
 - 17) 小松妙子, 滝内隆子, 前田修子. 訪問看護師の在宅ターミナルケアに関する知識・技術の修得状況, 日本在宅ケア学会誌 2010年；13巻：93-100.
 - 18) 前田修子, 滝内隆子, 小松妙子. 訪問看護師を対象とした感染管理の連携・指導に関する研修会の評価—研修会参加前後における知識・技術の修得状況の変化から, 日本在宅ケア学会誌 2010年；13巻：85-92.
 - 19) 佐藤公美子, 坪井良子, 奥宮暁子, 滝内隆子, 青木良子. 占領期・GHQ/SCAPによる病院再編と看護管理の形成過程—PHW/staff visitsからの実証, 日本看護歴史学会誌 2010年；23号：41-53.
 - 20) 小松妙子, 前田修子, 滝内隆子. 訪問看護師対象の感染管理に関する在宅人工呼吸器研修会への参加効果, 日本環境感染学会誌 2011年；26巻：41-48.
 - 21) 滝内隆子, 大津廣子, 足立みゆき. 占領期の看護教育指導者講習会における全身清拭に関する教授内容, 岐阜看護研究会誌 2011年；3号：1-8.
 - 22) 佐藤公美子, 坪井良子, 奥宮暁子, 滝内隆子, 青木良子. 占領期の病院管理改革に関する史的考察—占領期文書にみる Manittoff の活動記録からの分析—, 日本看護歴史学会誌 2011年；24巻：10-21.

原著 (欧文)

- 1) Setozaki Y, Times H. Mr. Gradgrind's educational system and its influence on humanity. Journal of Humanities Language & Culture & Literature. 2009;XXXI:47-89.

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：前田修子, 研究分担者：滝内隆子, 小松妙子；科学研究費補助金基盤研究(C)：「訪問看護師を対象とした感染管理教育プログラム」の検証と再構築に関する研究：平成 19-21 年度；3,864 千円(1,111：1,422：1,331 千円)
- 2) 研究代表者：小松妙子, 研究分担者：滝内隆子, 前田修子；科学研究費補助金基盤研究(C)：訪問看護師対象の「在宅ターミナルケア」に関する教育プログラム開発：平成 20-22 年度；3,510 千円(1,040：1,170：1,300 千円)
- 3) 研究代表者：佐藤公美子, 研究分担者：滝内隆子, 坪井良子, 奥宮暁子；科学研究費補助金基盤研究(C)：占領期の看護管理に関する考察—GHQ/SCAP 文書による歴史的分析—, 平成 20-22 年度：4,058 千円(1,605：1,483：970 千円)
- 4) 研究代表者：前田修子, 研究分担者：滝内隆子, 小松子他；科学研究費補助金基盤研究(C)：訪問看護師向け「膀胱留置カテーテル管理」研修プログラムの開発と効果検証；平成 21-23 年度；4,834 千円(1,504：1,250：2,080 千円)
- 5) 研究代表者：大津廣子, 研究分担者：滝内隆子, 足立みゆき他；科学研究費補助金基盤研究(C)：看護技術を教える教員・臨床看護師の看護技術教育力の育成・向上プログラムの開発：平成 22-25 年

度；4,899千円(479：3,938：328：154千円)

- 6) 研究代表者：塚原節子，研究分担者；滝内隆子，小松妙子他；大学活性化経費(教育)：AIMS-GIFUを活用した聴診技術の自己習得システム構築(フィジカルアセスメント)：平成22年度；340千円
- 7) 研究代表者：滝内隆子，研究分担者；小松妙子，岡本千尋他；岐阜大学社会人教育支援経費：平成22年度；337千円
- 8) 研究代表者：滝内隆子，研究分担者；滝内隆子，岡本千尋他；大学活性化経費(教育)：「採血」・「点滴静脈内注射」の自己習得システムを活用した授業(基礎看護技術Ⅱ)：平成23年度；500千円
- 9) 研究代表者：小松妙子，研究分担者；滝内隆子，渡邊郁子他；岐阜大学社会人教育支援経費：平成23年度；468千円

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

- 1) 研究代者：滝内隆子，小松妙子，岡本千尋，渡邊郁子，中島美奈子，棚橋一将，内田佳伯：看護技術シミュレーターの開発(1)；平成23-24年度；150千円：(株)タナック

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

滝内隆子：

- 1) 日本看護歴史学会理事(~現在)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

なし

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

- 1) 前田修子，滝内隆子，小松妙子：「訪問看護師を対象とした感染管理教育プログラム」の検証と再構築に関する研究：平成19-21年度科学研究費補助金基盤研究(C)報告書(平成21年3月)
- 2) 前田修子，滝内隆子，小松妙子：「訪問看護師を対象とした感染管理教育プログラム」の実証と再構築に関する研究：平成19-21年度科学研究費補助金基盤研究(C)分担報告書(平成22年3月)
- 3) 箕浦とき子，杉浦太一，滝内隆子，後閑容子，松田好美，奥村大志. 社会人基礎力育成を目指した看護学実習における育成・評価プログラムの開発・実証：平成21年度経済産業省体系的な社会人基礎力育成・評価システムの開発・実証事業分担報告書(平成22年3月)
- 4) 佐藤公美子，滝内隆子，坪井良子，奥宮暁子：占領期の看護管理に関する考察-GHQ/SCAP 文書による歴史的分析一，平成20-22年度科学研究費補助金基盤研究(C)報告書(平成23年3月)

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

- 1) 基礎看護分野では看護技術修得のための教育と研究に力を入れ、中でも臨床看護師との協働による看護技術教育、身体侵襲を伴う看護技術の教育に関する取り組みは、論文として成果を発表している。また、臨床看護師との協働による看護技術教育の取り組みは評価され、県外から講演依頼がきている。
- 2) 占領期に焦点をあてた病院管理並びに看護技術教育に関する研究は学会発表や論文として成果を発表している。中でも占領期の看護技術教育については看護史を研究領域とする研究者から史料として残す必要性を要望され、当時の関係者にインタビューを実施するなど研究を進めている。
- 3) 訪問看護師を対象とした在宅の感染管理に関する研修会の効果検証、訪問看護師を対象とした在宅ターミナルに関する教育プログラムの開発に関する研究は学会発表及び論文として成果を発表している。
- 4) 看護職のワークライフバランスに関する研究成果を発表している。早急に研究結果を論文にまとめ、看護職の確保定着に貢献できるように研究を継続していく。
- 5) 3年間での本分野の構成員の異動・欠員等で、一定の職場環境、教育活動を高めることに翻弄し、十分な研究活動のできる環境を整えることは十分とは言い切れない状況である。
- 6) 今回のカリキュラムの改変において、英語の担当者への報告が一切なされなかったのは遺憾である。教務厚生委員会や将来計画委員会にて検討されたのであろうが、私個人としては委員でないため検討に一切入ることができなく、教員会議で初めて聞くという次第であった。英語担当者が在籍しているにもかかわらず、意見を求めないのは理解に苦しむ。担当者としては英語運用力を強化するという今回の目的を良く理解をしているが故に、ストレスが非常に大きくかかった。その他、授業などは順調であり、研究においては英文での執筆を行っている最中である。

現状の問題点及びその対応策

- 1) 欠員教員の確保に努め、構成員が十分な中で教育活動及び研究活動に取り組めるように環境を整えていく。
- 2) 看護基礎教育の卒業時に求められている看護技術の到達度に学生を到達させるには自己学習できる環境・教材等が不足している。自己学習できる環境の整備及び教材の確保と併せて臨床看護師や在校生と協働した指導體制の整備をする。
- 3) 教員の看護技術力が低下しているため、臨床研修等の機会を確保し看護技術力を向上させる。
- 4) 研究と教育に費やす時間配分のバランスが悪い。今後は、自己の能力を見極め、バランス良く研究と教育に取り組む必要がある。
- 5) 学会誌やインパクトファクターの高い雑誌への論文投稿を実現させなければならない。そのためには、学会発表や雑誌の購読を積極的に行う。
- 6) 上記6)に記したように、英語に関しては担当者がいるのであるから相談をすべきである。

今後の展望

- 1) 平成24年度からのカリキュラム改正の意図を踏まえ、基礎看護学分野の教育内容・方法の充実をはかる。
- 2) 基礎看護学分野の教育方法の向上、および看護職の労働環境に着目した看護管理に関する研究を進めていく。
- 3) 構成員1人1人が取り組んでいる研究、及び基礎看護分野で共同で取り組む研究を推進し、研究活動の充実を図る。基礎看護学分野のテーマの1つである基礎看護技術教育の教育内容・方法の充実として、AIMS-Gifuを活用した取り組みを実践していきたい。
- 4) 循環病態学のメカニズムを動物実験を用いて明らかにしていくとともに、再生医療についても探究していきたい。

(2) 生命機能学分野

1. 研究の概要

本分野では、電子顕微鏡や蛍光顕微鏡に加え、分子生物学やコンピュータの技術を用いて、組織形態から分子レベルにまで至る研究を行っている。形態レベルの研究では、各種動物の舌乳頭及び上皮剥離後の結合組織の表面構造を走査型電子顕微鏡により観察し、主に比較解剖学的側面から食物及び咀嚼方法との関係について研究している。一方、分子レベルの研究としては、新たに見出した中心体タンパク質 CLERC の解析を通して、中心体や中心子機能の進化的特性の解明を目指している。さらに、ヒトを含めた多様な生物種のゲノム情報を活用することにより、生体分子の分子進化経路の解析や、祖先タンパク質の再現、微生物の病原因子の解析等、コンピュータを用いたバイオインフォマティクスに基づく研究を推進している。

2. 名簿

教授： 江村正一 Shoichi Emura
教授： 武藤吉徳 Yoshinori Muto

3. 研究成果の発表

著書 (和文)
なし

著書 (欧文)

- 1) Matsuoka T, Kotsuki H, Muto Y. Multi-functions of photodynamic pigments in ciliated protozoans. In: A. Méndez-Vilas ed. Current Research, Technology and Education Topics in Applied Microbiology and Microbial Biotechnology. Badajoz: Formatex Research Center; 2010:419-426.

総説 (和文)
なし

総説 (欧文)

- 1) Muto Y, Okano Y. CLERC and centrosomal leucine-rich repeat proteins. Central European Journal of Biology. 2010;5:1-10.

原著 (和文)

- 1) 江村正一. アブラコウモリの舌乳頭とその結合織芯の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2009年; 153巻: 56-62.
- 2) 江村正一. カルガモの舌乳頭とその結合織芯の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2009年; 153巻: 63-69.
- 3) 江村正一. ツグミとシロハラ舌表面の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2009年; 153巻: 101-106.
- 4) 江村正一. ノートリア舌乳頭の結合織芯の観察, 医学と生物学 2009年; 153巻: 107-113.
- 5) 江村正一, 奥村彦彦, 陳華岳. レッサパンダの舌乳頭とその結合織芯の走査型電子顕微鏡による観察, 哺乳類科学 2009年; 49巻: 37-43.
- 6) 江村正一. ヒヨドリ舌の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2009年; 153巻: 243-248.
- 7) 江村正一. 8種類の哺乳動物における肉球の汗腺管について, 医学と生物学 2009年; 153巻: 249-255.
- 8) 江村正一. 3種類のサギ舌表面の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2009年; 153巻: 423-430.
- 9) 江村正一. ハクビシンおよびタヌキの有郭乳頭と舌根部円錐乳頭について, 医学と生物学 2009年; 153巻: 431-436.
- 10) 松波宏佳, 武藤吉徳, 松波美紀, 温水理佳, 吉川美保, 箕浦とき子. 椅子からの立ち上がり動作の画像分析—「自然な動き」と「全面的な介助を受けたときの動き」の特徴—, 岐阜看護研究会誌 2009年; 1巻: 17-23.
- 11) 江村正一. アマサギとアオサギの舌の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2010年; 154巻: 20-27.
- 12) 江村正一. ムクドリ, ホトトギス, ウグイスの舌表面の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2010年; 154巻: 28-35.
- 13) 江村正一. ツバメの舌表面の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2010年; 154巻: 286-291.
- 14) 江村正一. アオバズクの舌の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2010年; 154巻: 292-298.
- 15) 江村正一, 阿閉泰郎, 陳華岳. 哺乳類の喉頭蓋の形態について, 形態・機能 2010年; 9巻: 13-16.
- 16) 江村正一. オオミズナギドリの舌の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2010年; 154巻: 441-446.
- 17) 江村正一. ドバト, キジバト, アオバトの舌の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2010年; 154

巻：447-453.

- 18) 江村正一. アカエリヒレアシギの舌表面の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2011年; 155巻: 1-6.
- 19) 江村正一. カワセミとアカショウビンの舌の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2011年; 155巻: 7-13.
- 20) 江村正一. ハシボソガラスの舌の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2011年; 155巻: 188-193.
- 21) 江村正一. トラツグミ, ハイタカ, オナガガモ, チュウサギの舌表面の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2011年; 155巻: 194-202.
- 22) 江村正一. フクロモモンガの舌表面の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2011年; 155巻: 377-383.
- 23) 江村正一. カナダガンとエジプトガンの舌の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2011年; 155巻: 384-389.
- 24) 江村正一. チリーフラミンゴの舌の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2011年; 155巻: 790-795.
- 25) 江村正一. モリスズメフクロウの舌表面の走査型電子顕微鏡による観察, 医学と生物学 2011年; 155巻: 796-801.

原著 (欧文)

- 1) Emura S, Okumura T, Chen H. Scanning electron microscopic study of the tongue in the Oriental scops owl (*Otus scops*). *Okajimas Folia Anat Jpn.* 2009;86:1-6.
- 2) Emura S, Okumura T, Chen H. Scanning electron microscopic study of the tongue in the Japanese pygmy woodpecker (*Dendrocopos kizuki*). *Okajimas Folia Anat Jpn.* 2009;86:31-35.
- 3) Kohbata S, Emura S, Kadoya C. Filterable forms of *Nocardia*: a preferential site of infection in the mouse brain. *Microb Infect.* 2009;11:744-742. IF 2.726
- 4) Chen H, Zhou X, Emura S, Shoumura S. Site-specific bone loss in senescence-accelerated mouse (SAMP6): A murine model for senile osteoporosis. *Exp Gerontol.* 2009;44:792-798. IF 3.804
- 5) Chen H, Yanao R, Emura S, Shoumura S. Anatomic variation of the celiac trunk with special reference to hepatic artery patterns. *Ann Anat.* 2009;191:399-407. IF 1.658
- 6) Emura S, Okumura T, Chen H. Comparative studies of the dorsal surface of the tongue in three avian species by scanning electron microscopy. *Okajimas Folia Anat Jpn.* 2010;86:111-115.
- 7) Emura S, Okumura T, Chen H. Scanning electron microscopic study of the tongue in the Jungle nightjar (*Caprimulgus indicus*). *Okajimas Folia Anat Jpn.* 2010;86:117-120.
- 8) Chen H, Zhou X, Shoumura S, Emura S, Bunai Y. Age- and gender-dependent changes in three-dimensional microstructure of cortical and trabecular bone at the human femoral neck. *Osteoporosis Int.* 2010;21:627-636. IF 4.859
- 9) Emura S, Okumura T, Chen H. Scanning electron microscopic study of the tongue in the rainbow lorikeet (*Trichoglossus haematodus*). *Okajimas Folia Anat Jpn.* 2011;88:17-21.
- 10) Emura S, Okumura T, Chen H. Morphology of the lingual papillae in the sitatunga. *Okajimas Folia Anat Jpn.* 2011;88:23-27.
- 11) Muto Y, Tanabe Y, Kawai K, Okano Y, Iio H. Climacostol inhibits *Tetrahymena* motility and mitochondrial respiration. *Cent Eur J Biol.* 2011;6:99-104. IF 0.685
- 12) Matsunami M, Yoshioka T, Minoura T, Okano Y, Muto Y. Evolutionary features and intracellular behavior of PRTB protein. *Biochem Genet.* 2011;49:458-473. IF 0.825
- 13) Ninomiya M, Tanaka K, Tsuchida Y, Muto Y, Koketsu M, Watanabe K. Increased bioavailability of triclin- amino acid conjugates via a prodrug approach. *J Med Chem.* 2011;54:1529-1536. IF 5.207

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

なし

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

- 1) ニノ宮真之, 土田裕三, 瀬瀬 守, 渡邊邦友, 田中香お里, 武藤吉徳, 他: トリシンアミノ酸接合体 (発明); 平成 22 年(特願 2010-20484)

6. 学会活動

1) 学会役員

江村正一：

- 1) 日本解剖学会評議員(～現在)
- 2) 日本臨床分子形態学会評議員(～現在)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

武藤吉徳：

- 1) Advances in Planar Lipid Bilayers and Liposomes ; Editorial Board(～現在)
- 2) TSWJ (Bioinformatics domain) ; Editorial Board(～現在)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

なし

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

なし

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

研究内容は、組織形態から生体分子のレベルまで広範囲に亘るが、分野内の教員間での共同研究は為されていない。また、研究成果は形態及び生体分子レベル共に少数ながら国際的にみても独自の成果が公表されている。しかし、少人数の分野であることもあり、出版数は比較的少ない。

現状の問題点及びその対応策

形態領域（電子顕微鏡）における研究の進行速度は、研究材料としての動物の器官及び組織の確保次第であり、今後これまで以上に全国の動物園及び各自治体の協力を得たいと考えている。一方、中心体タンパク質に関する研究では、CLERC と相互作用するタンパク質の同定や、他の中心体タンパク質との関連についての解析を進める必要がある。このためには、質量分析法等の利用が有効であり、これらを活用して結合タンパク質の同定を可能にしたい。

今後の展望

電子顕微鏡により各種動物の舌形態をさらに多く観察し、舌の構造と食性との関係を明らかにしたい。他方、中心体タンパク質については、多様なゲノム情報を活用できる **Bioinformatics** に基づく解析を積極的に導入し、中心体複製や細胞分裂における役割、さらに中心体タンパク質の分子進化について明らかにしたい。また、遺伝子レベルの研究についても学内の他の研究室との積極的な共同研究を行い、研究成果の奥行きを深めていきたい。

〔母子看護学講座〕

(1) 母性看護学分野

1. 研究の概要

今田葉子：

助産師が提供する周産期母子ケア，母性看護学教育・技術に関する研究

大原良子：

地域における看護職者の連携による幼児期以降の児童性的虐待（Child Sexual Abuse：CSA）の予防プログラムと介入方法の開発。西洋圏では，性的虐待から子供を守るためのプログラムが報告されており，地域を挙げて様々な対応をしている。これらを応用した親を含む地域への啓発プログラムの開発に向けた研究。

2. 名簿

准教授：	今田葉子	Yoko Imada
准教授：	大原良子	Ryoko Ohara
助教：	坂倉知恵	Tomoe Sakakura
助教：	吉田真弓	Mayumi Yoshida

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 今田葉子. パートⅡ 正常な妊娠とアセスメント 妊娠末期の看護：村本淳子，高橋真理編. 周産期ナーシング，東京：ヌーヴェルヒロカワ；2009年：49, 57-62, 83-92.
- 2) 大原良子，金城利雄. リハビリテーション看護の現状と課題：酒井郁子，金城利雄編. リハビリテーション看護，東京：南江堂；2010年：319-328.
- 3) 今田葉子. パートⅡ 正常な妊娠とアセスメント 妊娠末期の看護：村本淳子，高橋真理編. 周産期ナーシング，東京：ヌーヴェルヒロカワ；2011年：64-66, 72-79, 102-111.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

なし

総説（欧文）

なし

原著（和文）

- 1) 今田葉子，斎藤 真，永見桂子，村本淳子. 新生児の沐浴技術における児頭固定の早期習得に関する研究，母性衛生 2009年；50巻：165-173.

原著（欧文）

なし

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：今田葉子；科学研究費補助金若手研究(B)：乳房マッサージまたは抱き方・吸着のケアを受けた褥婦の乳汁分泌・自律神経系への効果；平成 21-23 年度；2,400 千円(1,800：500：100 千円)
- 2) 研究代表者：川崎晴久，連携研究者：西本 裕，今田葉子，後藤多郎；科学研究費補助金基盤研究(B)：ハンドハプティックインターフェイスによる手技伝達の研究；平成 23-25 年度；19,630 千円(7,280：6,630：5,720 千円)

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

今田葉子：

- 1) 日本人間工学会評議員(～平成 21 年度)
- 2) 第 12 回日本母性看護学会学術集会 企画委員(平成 22 年 3 月～7 月)
- 3) 日本人間工学会東海支部 2011 年研究大会 運営委員(平成 22 年 4 月～10 月)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

今田葉子：

- 1) 人間工学会東海支部 2009 年研究大会(平成 21 年 10 月, セッション 3A, 座長)
- 2) 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門(平成 22 年 1 月, 岐阜, 東海地区特別講演「母性看護学分野における人間工学的な手法を用いた研究の取り組み」演者)
- 3) 日本人間工学会東海支部 2011 年研究大会(平成 23 年 10 月, セッション 3A, 座長)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

今田葉子：

- 1) 人間医工学研究開発センター 人間支援ロボティクス部門組織委員(平成 22 年度～現在)
- 2) 岐阜県教員免許状更新講習(平成 22 年 8 月, 岐阜, 「思春期における性の健康教育」講師)

大原良子：

- 1) 全国助産師教育協議会教育課程検討小委員会(平成 23 年度)

坂倉知恵：

- 1) 岐阜県教員免許状更新講習(平成 22 年 8 月, 岐阜, 「思春期における性の健康教育」講師)

10. 報告書

- 1) 久保田君枝, 板谷裕美, 大原良子他：産褥期のモジュール：全国助産師教育協議会, 中部地区活動報告書 マタニティ・ステージ各期のモジュール方式による教育展開：51-73(平成 22 年度版)

11. 報道

- 1) 今田葉子：母性看護学と人間工学 融合：岐阜新聞(2011 年 5 月 3 日)

12. 自己評価

評価

今田葉子：

助産教育課程におけるカリキュラム編成や分野の人材不足等の課題を抱え、特に H23 年度は分野の運営に力を注いだ。研究についてはデータ収集及び分析に留まっており、研究成果の公表まで至らなかった点が残念であった。

大原良子：

教員数の不足に伴う授業時間・実習時間の増加に対応することにおわれ、1年中講義・演習・実習におわれていたという印象である。論文の投稿や発表まで至らず研究成果が全く残せなかった。

現状の問題点及びその対応策

今田葉子：

研究のための時間が十分確保できるよう分野運営の調整、人材確保、教育等に関する計画を立案し実行する。

大原良子：

教員数の不足、入れ替わりの激しさから計画通りに事が進まない状況が続いている。H23年度は定員の2/3の教員しかいないという状況となり多忙を極めたが、H24年度の新任の教員のほうが多く安定するまで時間がかかることが予測される。領域の運営がスムーズに行きそれぞれの役割が果たせるよう努力が必要である。また、指定規則の改正によるカリキュラム変更に対応し、よりよい教育ができるよう努力したい。

H23年度は不足している教員分の授業・実習の対応で精いっぱいであり、研究に全く対応できなかった。学内の教育が最優先であるが、社会的な活動や研究にも取り組む時間の確保し研究者としての役割を果たしたい。

今後の展望

今田葉子：

さらなる研究成果の公表の他、社会活動においても充実を図りたい。

大原良子：

今後は、長期的な地元と密着した研究と海外での学会発表をぜひ行いたい。

(2) 小児看護学分野

1. 研究の概要

小児看護学分野では、健康上の問題を抱えた子どもと家族に対する援助について研究を行ってきた。特に小児気管支喘息やアトピー性皮膚炎といったアレルギー疾患を持つ子どもと家族では、子どもの療養行動の自律や母親の疲労などについて明らかにしてきた。また、思春期の胆道閉鎖症の子どもを対象にした研究では、先天性疾患患児の情報ニーズの特徴を明らかにし、健康管理及び社会生活の自律にむけての支援について検討した。平成 23 年度からは発達障害や肢体不自由児に長年関わってきた助教が加わったことで、さらに研究の幅を広げていくことが可能となった。行ってきた研究は今後も継続・発展させていくものばかりであり、研究に割く時間を十分に確保できない状況ではあるが、取り組みを続けていく予定である。

2. 名簿

教授： 杉浦太一 Taichi Sugiura
准教授： 田中千代 Chiyo Tanaka
助教： 大橋麗子 Reiko Ohashi

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 田中千代, 岩井 潤. 系統看護学講座専門 23 小児看護学 2 第 12 版, 東京: 医学書院; 2011 年: 216-266.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

- 1) 中村泰子, 奈良間美保, 堀 妙子, 田中千代, 齋藤麻子, 松永侑美. 子どもの医療的ケアにかかわる医療・教育職の情報入手の現状と希望の実態, 小児看護 2011 年; 34 巻: 218-223.

総説（欧文）

なし

原著（和文）

- 1) 佐合真紀, 浅野みどり, 伊藤浩明, 二村昌樹, 杉浦太一. 食物アレルギー児の母親の食生活管理の現状と負担の関係, 日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会誌 2009 年; 7 巻: 21-27.
- 2) 石黒彩子, 浅野みどり, 杉浦太一, 三浦清世美, 山田知子, 石井 真, 城 憲秀. 構造方程式モデリング手法を用いた気管支喘息をもつ子どもの QOL 概念モデルの検討, 医学と生物学 2010 年; 154 巻: 218-226.

原著（欧文）

- 1) Yamada T, Asano M, Ishiguro A, Sugiura T, Miura K. Collaboration between adolescent asthma patients and medical caregivers: state of collaboration from the perspective of child patients. J Jpn Soc Nurs Health Care. 2009;11:6-14.
- 2) Tanaka C, Narama M. Relationship between the acquisition of health-related information, health behaviors, and social factors in adolescent patients with biliary atresia. The Journal of Child Health. 2010;69:618-627.

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：杉浦太一，研究分担者：佐合真紀(平成 21 年度)，大橋麗子(平成 23 年度)；科学研究費補助金基盤研究(C)：睡眠時に起こるアトピー性皮膚炎を持つ幼児の掻痒感への対処法と効果；平成 21-23 年度；4,400 千円(3,120：780：500 千円)
- 2) 研究代表者：奈良間美保，研究分担者：田中千代，堀 妙子，豊田ゆかり，小平由美子；科学研究費補助金基盤研究(B)：親子の相互作用に着目した家族主体の小児在宅ケアガイドラインの有用性の検証と活用；平成 22-23 年度；5,850 千円(4,030：1,820 千円)
- 3) 研究代表者：大橋麗子；科学研究費補助金研究活動スタート支援：肢体不自由児施設における被虐待児の段階的システムの解明；平成 23-24 年度；800 千円 (400：400 千円)

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

杉浦太一：

- 1) 一般社団法人日本看護研究学会社員：評議員(～現在)
- 2) 日本看護医療学会評議員(～現在)
- 3) 日本小児保健協会研究助成選考委員会委員(平成 22 年度～平成 23 年度)
- 4) 日本小児看護学会評議員(平成 23 年 7 月～現在)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

杉浦太一：

- 1) 日本看護研究学会雑誌；編集委員(～現在)

7. 学会招待講演、招待シンポジスト、座長

杉浦太一：

- 1) 日本家族看護学会第 17 回学術集会(平成 22 年 9 月, 名古屋, シンポジウム「家族看護研究を実践につなげるために・・・」座長)
- 2) 経済産業省社会人基礎力育成事例研究セミナー(平成 22 年 9 月, 名古屋, パネルディスカッション「振り返り・評価を活用した社会人基礎力の育成」パネリスト)
- 3) 第 58 回日本小児保健協会学術集会(平成 23 年 9 月, 名古屋, ミニシンポジウム「保育所・幼稚園に通園する発達障害をもつ子ども・母親への対応」座長)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

なし

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

助教の退職に伴い平成 22 年度は助教がおらず教員 2 名体制で学生の教育と研究を行ってきた。平成 23 年度からは新たな助教が加わり 3 名となった。そのためもあり、業績は多くはないが、授業で使用している教科書を執筆や科学研究費補助金の獲得もあり、かなり十分な業績となっていると考える。

現状の問題点及びその対応策

学生への教育や学内運営に対して使わなければならない時間が多く、研究フィールドで十分に時間を

使った研究を行うことが困難な状況である。論文数や著書数を今後増やしていくことが課題である。

今後の展望

教員の定着を図ることで系統だった研究を行なえるようになり、より良い研究成果を出していくことができるようになるを考える。さらに、研究に使用できる時間を確保するために、業務内容をスリム化していくことが望まれる。

〔成人・老年看護学講座〕

(1) 成人看護学分野（慢性期）

1. 研究の概要

臨床における看護の質の向上のために臨床で得られた知の科学的分析，さらに慢性看護学の学問の確立と発展に貢献できるよう研究に取り組んでいる。具体的には，慢性的な病を持ちながら生活する成人期にある患者の QOL, QOL の向上や再構築に求められる看護の理論的探索とそれに依拠する新たな理論開発，難病に関する看護，看護実践能力育成を目指した慢性看護学臨地実習における教育内容などに関する研究である。

2. 名簿

教授：	足立久子	Hisako Adachi
准教授：	福原隆子	Takako Fukuhara
助教：	伊藤育子	Ikuko Ito
助教：	恒川育代	Ikuyo Tsunekawa

3. 研究成果の発表

著書（和文）

なし

著書（欧文）

なし

総説（和文）

- 1) 足立久子. 慢性疾患患者の HRQOL 評価への選好値測定法の適用, 岐阜看護研究会誌 2009 年; 1 巻: 9-16.
- 2) 伊藤育子. 1 型糖尿病をもつ青年期の人々が抱える問題, 岐阜看護研究会誌 2009 年; 1 巻: 79-85.
- 3) 伊藤育子, 杉浦浩子, 中島美奈子, 桑田弘美, 箕浦とき子, 後閑容子. 卒業生による評価, 岐阜看護研究会誌 2009 年; 1 巻: 87-92.
- 4) 福原隆子, 伊藤育子. パーキンソン病をもつ患者の看護, ナーシングカレッジ 2010 年; 14 巻: 59-77.
- 5) 田中さおり, 足立久子. 再入院を繰り返す慢性心不全患者の自己管理行動とその患者を支える家族への支援の現状と課題, 岐阜看護研究会誌 2011 年; 3 巻: 67-77.

総説（欧文）

なし

原著（和文）

- 1) 小野敏子, 笠井由美子, 野田洋子, 足立久子. 二分脊椎女性の月経と性の健康に関する研究, 川崎市立看護短期大学紀要 2010; 15 巻: 81-85.
- 2) 杉浦浩子, 中島美奈子, 伊藤育子, 桑田弘美, 箕浦とき子, 後閑容子. 岐阜大学医学部看護学科卒業生の動向および勤務状況の実態, 岐阜大学医学部紀要 2010 年; 56 巻: 1-8.

原著（欧文）

- 1) Adachi H, Oyamada T. Analyses of factors related to the improvement of HRQOL in outpatients with diabetes. Acta Sch Med Univ Gifu. 2010;56:53-57.

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：恒川育代；科学研究費補助金若手研究(B)：男性 2 型糖尿病患者の心筋梗塞予防に向けた職場のソーシャルサポートに関する研究；平成 20-22 年度；2,600 千円(780：780：1,040 千円)
- 2) 研究代表者：伊藤育子；科学研究費補助金若手研究(B)：日本人向けの糖尿病足病変予防のための看護プログラムの作成とその有用性の検討；平成 19-21 年度；3,860 千円(1,000：2,210：650 千円)
- 3) 研究代表者：野田洋子，研究分担者：足立久子；科学研究費補助金基盤研究(C)：二分脊椎女性のリプロダクティブヘルスケアプログラムの実践と評価；平成 22-24 年度；4,160 千円(2,340：1,040：780 千円)
- 4) 研究代表者：伊藤育子；学術研究助成基金助成金若手研究(B)：天疱瘡患者の日常生活の観察と生活

日誌を活用した社会復帰支援プログラム作成と検証；平成 23-25 年度；2,470 千円(780：780：910 千円)

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

足立久子：

- 1) 日本看護学研究学会評議員(～平成 21 年 3 月)
- 2) 日本慢性看護学会(～現在)
- 3) 日本ヒューマン・ケア心理学会理事(～現在)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

なし

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

福原隆子：

- 1) 岐阜県准看護師試験委員(平成 21 年度)

10. 報告書

- 1) 野田洋子，小野敏子，足立久子他，二分脊椎女性の月経と性の健康に関する包括的ケアプログラムの開発：平成 18-20 年度科学研究費補助金分担報告書(平成 21 年 3 月)
- 2) 後閑容子，箕浦とき子，足立久子，西本 裕，奥村太志，足立みゆき：9 月入学実施に向けての調査検討：1-33(平成 21 年 3 月)
- 3) 伊藤育子：日本人向けの糖尿病足病変予防のための看護プログラムの作成とその有用性の検討；平成 19-21 年度科学研究費補助金若手研究(B) 研究成果報告書(平成 21 年 3 月)
- 4) 恒川育代：男性 2 型糖尿病患者の心筋梗塞予防に向けた職場のソーシャルサポートに関する研究：平成 20-22 年度文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)研究成果報告書：1-5(平成 23 年 5 月)

11. 報道

- 1) 福原隆子：「研究室から 大学はいま」高齢者虐待防止活動を推進：岐阜新聞(2009 年 9 月 15 日)

12. 自己評価

評価

実質 3 名の教員により，教育と研究活動を行っている。時間的余裕のない厳しい条件の中で，教育に関しては，ほぼ概ね達成できていると思われる。研究については各教員，少ないながらも業績を積み上げるよう努力している。看護実践能力育成を目指した慢性看護学臨地実習における教育内容に関する共同研

究においても、その成果はわずかではあるが学会発表と論文発表している。

現状の問題点及びその対応策

教育活動に主眼をおき、研究活動の時間の確保は難しく、研究活動に努力しているもののやや低迷状態である。慢性期分野の教員をとりまく研究環境を変わらないが、時間が確保できるよう対応していきたい。

今後の展望

学内のみならず、臨床との共同研究の推進を図りたい。また、外部資金の獲得として科学研究費にとどまらず、各種団体の研究助成への申請など積極的に推進していきたい。

(2) 成人看護学分野（急性期）

1. 研究の概要

成人看護学急性期分野では、看護学教育や看護実践に活かすことを目的とした研究課題を設定し、調査研究や教材開発、実験/準実験研究等を行っている。研究の対象は、手術を受ける患者と家族や救急・クリティカルケアを必要とする患者と家族、リハビリテーションを必要とする患者と家族、スポーツ等の運動を行う者など多岐にわたっており、広く家族・地域を含めた健康支援を考えるものである。

主な研究テーマ

- ・成人急性期看護学講義・演習および実習における実践能力の育成と到達度に関する研究
- ・e-learning システムを使用した学習効果の検証に関する研究
- ・成人急性期看護における看護技術や教育方法に関する研究
- ・救急蘇生のシミュレーション教育における学習効果に関する研究
- ・救急領域における患者家族のニーズに関する研究
- ・救命救急領域における自殺未遂患者へのケアに関する研究
- ・災害看護における看護師のストレスおよびそのケアに関する研究
- ・クリティカルケア看護に関する研究
- ・術後せん妄に関する研究
- ・スポーツにおける看護師の役割に関する研究
- ・障害者スポーツの競技成立に関わる因子の研究
- ・骨軟部腫瘍術後の四肢障害者のリハビリテーションに関する研究
- ・上肢障害者のリハビリテーション機器の効果判定
- ・スポーツ外傷・スポーツ障害に関する研究

2. 名簿

教授：	西本 裕	Yutaka Nishimoto
教授：	松田好美	Yoshimi Matsuda
准教授：	高橋由起子	Yukiko Takahashi
助教：	岩田美智子	Michiko Iwata
助教：	林 寛子	Hiroko Hayashi

3. 研究成果の発表

著書（和文）

なし

著書（欧文）

なし

総説（和文）

- 1) 松田好美. 救急部門における看護師の役割—トリアージから感染対策まで, 感染防止 2010年; 3巻: 20—29.
- 2) 柴 裕子, 松田好美. 消化器疾患における開腹手術後患者の離床に関する研究の動向と課題, 岐阜看護研究会誌 2011年; 3号: 57—67.

総説（欧文）

なし

原著（和文）

- 1) 西本 裕. 小中学校における「運動器」の問題—学校教員を対象とした質問紙調査結果の検討—, 岐阜県医師会医学雑誌 2009年; 22巻: 93—100.
- 2) 大野貴敏, 大島康司, 山口良大, 下川邦泰, 清水克時, 西本 裕, 浅野奈美, 広瀬善信. 病的骨折をきたした大腿骨腫瘍の1例, 東海骨軟部腫瘍 2009年; 21巻: 31—32.
- 3) 高橋由起子, 松田好美. コンピュータ教材を用いた術前指導演習の到達度別レポート内容の分析, 岐阜看護研究会誌 2009年; 1号: 73—78.
- 4) 高橋由起子, 松田好美, 梅村俊彰. 生体腎移植を受ける患者の看護についての学生の学び—講義終了の質問紙からの分析—, 日本看護学会論文集看護総合 2009年; 40号: 362—364.
- 5) 高橋由起子, 松田好美, 梅村俊彰, 二村芽久美. 成人急性期看護学実習における受け持ち患者の現状と実習評価の分析—電子カルテシステムの活用による実習状況—, 日本看護学会論文集看護教育 2009年; 40

号：224-226.

- 6) 梅村俊彰. 腎性貧血における Hb 濃度の変化と必要な EPO 量の推定, 臨牀透析 2009 年; 25 卷: 281-285.
- 7) 高橋由起子, 松田好美, 梅村俊彰, 二村芽久美. e-learning システムを活用した看護実践能力育成のための術前指導用教材の利用状況と今後の課題, 岐阜看護研究学会誌 2010 年; 2 号: 33-40.
- 8) 高橋由起子, 松田好美, 梅村俊彰, 二村芽久美. 試行的ブレンディッドラーニングシステムによる学習満足調査—アンケート調査からの分析—, 岐阜看護研究学会誌 2011 年; 3 号: 9-16.
- 9) 二村芽久美, 高橋由起子, 梅村俊彰, 松田好美. 急性期看護学実習における学生の学び—目標到達度別レポート内容の比較から—, 岐阜看護研究学会誌 2011 年; 3 号: 27-36.
- 10) 松田好美, 箕浦とき子, 後閑容子, 滝内隆子, 玉置真理子, 額瀨朋弥. 岐阜県における地域医療に貢献できる看護職の育成プログラムの開発と実践, 岐阜看護研究学会誌 2011 年; 3 号: 121-130.
- 11) 毛利哲也, 西本 裕, 伊藤 聡, 川崎晴久. 手指リハビリテーション支援システムにおける実証実験, 日本ロボット学会誌 2011 年; 29 卷: 43-44.

原著 (欧文)

- 1) Nishida Y, Isu K, Ueda T, Nishimoto Y, Tuchiya H, Wada T, Sato K, Tsukushi S, Sugiura H. Osteosarcoma in the elderly over 60 years: A multicenter study by the Japanese Musculoskeletal Oncology Group. J Surg Oncol. 2009;100:48-54. IF 2.428
- 2) Nagano A, Ohno T, Nishimoto Y, Yamada K, Shimizu K. Extraskeletal osteosarcoma of the thigh: an autopsy case report. Sarcoma. 2009;186565.
- 3) Yano K, Hashimura J, Aoki T, Nishimoto Y. Flexion-extension motion assistance using an upper limb motion-assist robot based on trajectory estimation of reaching movement. Conf Proc IEEE Eng Med Biol Soc 2009;4599-4602.
- 4) Terabayashi N, Ohno T, Nishimoto Y, Oshima K, Takigami I, Yasufuku Y, Shimizu K. Non-union of a first rib fracture causing thoracic outlet syndrome in a basketball player: A case report. J Shoulder Elbow Surg. 2010;19:e20-e23. IF 2.314
- 5) Hioki M, Kawasaki H, Sakaeda H, Nishimoto Y, Mouri T. Finger Rehabilitation System Using Multi-fingered Haptic Interface Robot Controlled. Proc BioRob. 2010;276-281.
- 6) Ito S, Kawasaki H, Ishigure H, Natsume M, Mouri T, Nishimoto Y. A design of fine motion assist equipment for disabled hand in robotic rehabilitation system. Journal of the Franklin Institute. 2011; 348:79-89.

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者: 岩本幸英, 研究分担者: 西本 裕; 厚生労働省科学研究費補助金がん臨床研究事業: 高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究; 平成 20-22 年度; 75,320 千円(31,428 : 25,410 : 18,482 千円)
- 2) 研究代表者: 松田好美; 岐阜大学活性化経費(教育), AIMS-Gifu 学習支援システムを活用した小児・乳児の救急蘇生教育; 平成 21 年度; 490 千円
- 3) 研究代表者: 箕浦とき子, 共同研究者: 後閑容子, 滝内隆子, 松田好美; 岐阜県における地域医療に貢献できる看護職の育成プログラムの開発と実践; 大学活性化経費(地域連携: 一般); 平成 21 年度; 600 千円
- 4) 研究代表者: 松田好美, 研究分担者: 西本 裕, 高橋由起子, 梅村俊彰, 二村芽久美, 竹内登美子, 間宮礼子, 小澤和弘, 寺内英真; 岐阜大学技術交流研究会活動支援費; コンピュータ教材開発研究会; 平成 21 年度; 150 千円
- 5) 研究代表者: 高橋由起子, 研究分担者: 松田好美, 加藤直樹; 科学研究費補助金基盤研究(C): 看護実践能力育成のためのブレンディッドラーニングシステムの構築とその学習効果; 平成 21-23 年度; 2,000 千円(900 : 600 : 500 千円)
- 6) 研究代表者: 高橋由起子, 共同研究者: 西本 裕, 松田好美, 梅村俊彰, 二村芽久美; 大学活性化経費(教育): 看護実践能力を育成のための体験型学内演習の展開; 平成 21 年度; 500 千円
- 7) 研究代表者: 松田好美, 研究分担者: 西本 裕, 高橋由起子, 梅村俊彰, 二村芽久美; 大学活性化経費(教育): 心肺蘇生修得のための継続・連携教育; 平成 22 年度; 500 千円
- 8) 研究代表者: 高橋由起子, 研究分担者: 松田好美, 西本 裕, 梅村俊彰, 二村芽久美, 伊藤友美, 江崎美記, 伊藤稔子, 梶間和枝, 高橋直美; 岐阜大学技術交流研究会活動支援費; Gifu クリティカルケア看護情報研究会; 平成 22 年度; 150 千円
- 9) 研究代表者: 高橋由起子, 共同研究者: 西本 裕, 松田好美, 梅村俊彰, 二村芽久美; 大学活性化経費(教育): クリティカルケア看護に関する実践能力の育成を目指した体験型学内演習プログラム; 平成 22 年度; 500 千円

- 10) 研究代表者：高橋由起子，研究分担者：松田好美，西本 裕，梅村俊彰，岩田美智子，伊藤友美，江崎美記，伊藤稔子，梶間和枝；岐阜大学技術交流研究会活動支援費；Gifu クリティカルケア看護情報研究会；平成 23 年度；150 千円
- 11) 研究代表者：高橋由起子，共同研究者：西本 裕，松田好美，梅村俊彰，岩田美智子；大学活性化経費(教育)：クリティカルケア看護実践能力育成のためのスキルトレーニングプログラムの構築；平成 23 年度；500 千円

2) 受託研究

- 1) 矢野賢一，西本 裕，柳瀬秀治；都市エリア産学官連携促進事業(発展型)「モノづくり技術と IT を活用した高度医療機器の開発」「上肢・下肢動作支援ロボット(アクティブギプス)の開発」；平成 21-22 年度；43,948,853 円(24,373,960：19,574,893 円)

3) 共同研究

- 1) 西本 裕：床上で利用可能な手指リハビリテーション支援システムの研究開発；平成 21 年度；19,677 千円；(株)丸富精工

5. 発明・特許出願状況

- 1) 川崎晴久，夏目昌寿，西本 裕，毛利哲也，石樽康彦：上肢手指機能回復訓練装置；平成 23 年度(特許第 4811868 号)

6. 学会活動

1) 学会役員

- 西本 裕：
- 1) 中部日本整形外科災害外科学会評議員(～現在)
 - 2) 日本整形外科学会代議員(平成 22 年 12 月～現在)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

- 西本 裕：
- 1) 第 117 回中部日本整形外科災害外科学会(平成 23 年 10 月，宇部，「腫瘍・腫瘍類似疾患」座長)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

- 西本 裕：
- 1) 岐阜県社会保険診療報酬支払基金診療報酬請求審査委員会委員(～現在)
 - 2) 岐阜県スポーツドクター協議会理事(～現在)
 - 3) 岐阜労働局労災保険診療協議会委員(平成 21 年度～現在)
 - 4) 損害保険料率算出機構顧問医(平成 21 年度～現在)
 - 5) 岐阜県体育協会スポーツ医科学委員(平成 21 年度～現在)
 - 6) 広州 2010 アジアパラ競技大会帯同医(平成 22 年 12 月 7 日～20 日)

松田好美：

- 1) 社団法人岐阜県看護協会岐阜県看護教員養成講習会講師(平成 21 年 11 月～平成 22 年 1 月)

高橋由起子：

- 1) 社団法人岐阜県看護協会岐阜県看護教員養成講習会講師(平成 23 年 12 月～現在)

10. 報告書

- 1) 松田好美：AIMS-Gifu 学習支援システムを活用した小児・乳児の救急蘇生教育：平成 21 年度岐阜大学活性化経費(教育)成果報告書：1-4(2010 年 12 月)
- 2) 高橋由起子, 西本 裕, 松田好美, 梅村俊彰, 二村芽久美：看護実践能力育成のための体験型学内演習の展開：平成 21 年度岐阜大学活性化経費(教育)成果報告書：1-4(2010 年 12 月)
- 3) 松田好美, 高橋由起子, 梅村 俊彰：CAI 教材を利用した心肺蘇生法の知識・技術・実施への意思の保持・強化に関する研究：平成 19 年度-21 年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究報告書(平成 23 年 1 月)

11. 報道

- 1) 高橋由起子：「研究室から 大学はいま」PC 教育で看護実践能力の育成：岐阜新聞(2009 年 6 月 16 日)

12. 自己評価

評価

成人急性期看護学分野の教員構成は毎年変化し、平成 23 年度は新任 2 名を加えた 5 名となっている。研究テーマは各々が主要なテーマを持ち、分野全体で協力しながら研究を実践している。また競争的資金として科学研究費補助金基盤研究(C)、厚生労働省科学研究費補助金をそれぞれ 1 件および岐阜大学活性化経費 6 件を獲得している。総合的評価としておおむね目標を達成できたと評価するが、看護に関する欧文原著論文の作成が不足している。新任の 2 名の分野メンバーと共に研究活動の更なる展開を創造する必要がある。

現状の問題点及びその対応策

教員の移動、定着率の問題もあり、継続した共通テーマに沿った研究活動が低迷している。また教員数が少なく急性期看護学および大学院の教育活動に主眼をおいていることにより、研究活動・論文執筆の時間の確保が難しい状況である。次年度からは新任教員と協力し、効率を考えた活動により、各々の専門性を生かした研究体制の構築を図りたい。

今後の展望

各々の専門性を生かしながら、分野としての共通テーマに沿った共同研究を推進していく予定である。また総合大学の特長を生かした学内での共同研究の可能性の追求、また国内の大学・研究施設との学術交流・共同研究の推進を図りたい。競争的資金の獲得については、科学研究費、学内競争的資金にとどまらず各種団体の研究助成への申請を積極的に推進したい。また若手研究員の研究力向上のためには、内地留学や在外研修への派遣も考慮したいが、まずは教員の定着率向上が研究の継続への推進になると考える。

(3) 老年看護学分野

1. 研究の概要

老年看護学分野では、超高齢社会に突入しつつある時代において、多様な個人や家族の人生観や価値観を大切にしたい高齢者への支援やその健康の維持を図ることを重要な課題と考えている。

研究テーマとしては、高齢者の QOL を維持・向上するために、その「もてる力」を重視し、「その人らしい生活の維持」が可能となるようなケアの方策に関する研究を行っている。

看護教育に関連する研究としては、学生の高齢者への実践応力の向上を意図し、主に、臨地実習指導方法に関する研究を行っている。臨地実習では、ありのままに高齢者を理解しケアを実践するための視点を持ち、「もてる力」を意識的に観ることができることを強調して実施している。

大学院医学系研究科看護学専攻においては、地域健康援助学分野の中に、老年看護学は位置づけされており、老年看護学の方向性と現状の間の起きている数々の実情的な課題をとりあげ、制度に関する研究や、実践方法に関する研究に取り組んでいる。

2. 名簿

教授：	松波美紀	Miki Matsunami
准教授：	小木曾加奈子	Kanako Ogiso
助教：	温水理佳	Rika Nukumizu
助教：	吉川美保	Miho Yoshikawa
助教：	臼井かおり	Kaori Usui

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 山村 礎, 勝野とわ子, 奥野茂代, 河原加代子, 川西千恵美, 城生弘美, 松尾ミヨ子, 堀内園子, 箕浦とき子, 安藤郁子他. ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 基礎看護技術 一危篤・終末時の看護. 第3版, 東京: メディカ出版: 2011年: 441-454.
- 2) 安藤邑恵, 今井七重, 今井 一, 小木曾加奈子, 乙村 優, 上平公子, 河口尚子, 近藤邦代, 柴田由美子, 正村静子, 高野晃伸, 棚橋千弥子, 問い田小百合, 服部紀子, 林由美子, 松井いづみ, 真野啓子, 八島妙子, 山下科子, 渡辺美幸. 小木曾加奈子監修, 今井七重, 中山かおり編. 看護師必修問題集攻略ブック 12年度版初版, 東京: 成美堂出版: 2011年.
- 3) 松宮良子, 今井七重, 小木曾加奈子. 宮嶋 淳編. 生殖ケアソーシャルワーク論 初版, 東京: ヘルス・システム研究所: 2011年: 29-58.
- 4) 小木曾加奈子, 棚橋千弥子, 柴田由美子執筆編集協力. 看護職従事者必携! U-CAN のナース実用手帳 2012年版 第5版, 東京: 主婦の友社: 2011年.
- 5) 小木曾加奈子執筆編集協力. 介護職従事者必携! U-CAN のケア実用手帳 2012年版 第6版, 東京: 主婦の友社: 2011年.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

なし

総説（欧文）

なし

原著（和文）

- 1) 松波宏佳, 武藤吉徳, 松波美紀, 温水理佳, 吉川美保, 箕浦とき子. 椅子からの立ち上がり動作の画像分析 - 「自然な動き」と「全面的な介助を受けたときの動き」の特徴, 岐阜看護研究会誌 2009年: 17-23.
- 2) 新家早紀, 松波美紀, 武藤吉徳. 施設で過ごす認知症高齢者が表出する感情に関する一考察, 第39回日本看護学会論文集-老年看護 2009年: 234-236.
- 3) 松波美紀, 野中恵美, 山田陽子, 野村郁子. 一般病棟で働く看護師の高齢入院患者への関わり方, 第39回日本看護学会論文集-老年看護 2009年: 267-269.
- 4) 市原亜矢子, 可児みさ代, 佐伯洋子, 和下厚子, 松波美紀. 二交替勤務導入に伴い長時間夜勤について考える-看護師の動き方と抱えている気持ちの実態調査を通して, 第39回日本看護学会論文集-看護管理 2009年: 134-136.
- 5) 伊藤育子, 杉浦浩子, 中島美奈子, 桑田弘美, 箕浦とき子, 後閑容子. 卒業生による大学生活の評価, 岐阜看護研究会誌 2009年: 17-23.
- 6) 服部直子, 箕浦とき子. 看護基礎教育における外国人留学生受け入れの実態と今後の課題 - ベトナム人留

学生を受け入れた教育機関と留学生への調査一, 日本看護学教育学会誌 2010年:13-24.

- 7) 野中恵美, 小林淑子, 松波美紀. 一般病棟の病棟看護師と認知症高齢患者との意思疎通の実態, 第40回日本看護学会論文集-老年看護 2010年:105-107.
- 8) 野村彩也子, 武藤明日花, 遠藤牧子, 松波美紀, 温水理佳, 吉川美保, 箕浦とき子. 認知症高齢者が昼間に表出する表情の実態-「音楽療法」活動が開催された日とされなかった日の表情の変化, 岐阜看護研究会誌 2011年;3巻:79-91.
- 9) 丸山あさ美, 箕浦とき子, 吉川美保, 温水理佳, 松波美紀. 化粧療法が高齢女性に与える影響, 岐阜看護研究会誌 2011年;3巻:93-104.
- 10) 温水理佳, 箕浦とき子, 松波美紀, 吉川美保. 認知症高齢者との看護学生とそのコミュニケーションとその指導の検討, 岐阜看護研究会誌 2011年;3巻:105-110.
- 11) 小木曾加奈子. 認知症高齢者の“よくない状態(ill-being)の指標に基づいた分析-生活全体に配慮が必要な認知症高齢者に着目をして-, 介護福祉学 2011年;18巻:155-161.
- 12) 佐藤八千子, 小木曾加奈子, 今井七重. 中高年者が認識する高齢期をいきいきと暮らす秘訣, 岐阜経済大学論集 2011年;44巻:13-21.

原著 (欧文)

- 1) Matsunami M, Yoshioka T, Minoura T, Okano Y, Mito Y. Evolutionary Features and Intracellular Behavior of the PRTB Protein. Biochem Genet. 2011;49:458-473. IF 0.825

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者: 箕浦とき子, 研究分担者: 松田好美, 後閑容子, 滝内隆子; 大学活性化経費(地域): 岐阜県における地域医療に貢献できる看護職の育成プログラムの開発と実践; 平成21年度; 700千円
- 2) 研究代表者: 松波美紀; 科学研究費補助金基盤研究(C): 急性期医療における認知症高齢者の「持つ力」を活用した看護ケアプログラムの開発; 平成22-24年度; 2,580千円(1,170:910:500千円)
- 3) 研究代表者: 箕浦とき子, 研究分担者: 松波美紀, 温水理佳, 吉川美保; 大学活性化経費(地域連携: 一般): 入院加療中の認知症高齢者の看護を考える-岐阜県内病院で働く看護師とのワークショップの開催-; 平成22年度; 600千円
- 4) 研究代表者: 松波美紀, 研究分担者: 小木曾加奈子, 温水理佳, 臼井かおり, 太田智子; 大学活性化経費(地域連携: 一般): 入院加療中の認知症高齢者の看護を考える その2-岐阜県内病院で働く看護師との事例検討会の開催-; 平成23年度; 600千円
- 5) 研究代表者: 小木曾加奈子, 共同研究者: 阿部隆春, 平澤泰子, 山下科子, 安藤邑恵; 高齢社会的実践的研究助成: 認知症ケアにおけるケア実践者のケア充実感と職務満足度の関係について-ICFの視点に基づく「認知症ケア内容尺度」の開発-; 平成21年10月-平成23年9月; 2,140千円(1,000:1,140千円)

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

箕浦とき子:

- 1) 日本老年行動科学会常任理事(~現在)

小木曾加奈子:

- 1) 東海学校保健学会会計監査(平成23年度)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

箕浦とき子：

- 1) 高齢者のケアと行動科学編集委員(～現在)
- 2) 日本看護学教育学会誌専任査読委員(平成 21 年 4 月～現在)
- 3) 岐阜看護研究会誌編集委員(平成 21 年度)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

小木曾加奈子：

- 1) 平成 23 年度地域福祉実践・研究フォーラム・日本地域福祉学会東海北陸地方会(平成 23 年 12 月, 岐阜, フォーラム「医療・介護分野」パネリスト・報告者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

箕浦とき子：

- 1) 岐阜県看護師等就業協力員(平成 21 年度～現在)
- 2) 社団法人静岡県看護協会認定看護師教育課程「脳卒中リハビリテーション看護」入試委員(～現在)

松波美紀：

- 1) 社団法人岐阜県看護協会看護教員養成課程講師(～現在)

小木曾加奈子：

- 1) 三重県福祉・介護人材の確保と定着に関する実態調査委員長(平成 23 年度)

10. 報告書

- 1) 小木曾加奈子：認知症ケアにおけるケア実践者のケア充実感と職務満足度の関係について—ICF の視点に基づく「認知症ケア内容尺度」の開発—：平成 21・22 年度財団法人日本生命財団助成金研究成果報告書：1-85, 100-108, 117-121, 付録資料 7-43(平成 23 年 9 月)

11. 報道

- 1) 松波美紀：認知症を知り地域で支える：岐阜新聞(2009 年 12 月 27 日)

12. 自己評価

評価

老年看護学分野では、高齢者の「もてる力」に注目した高齢者理解、高齢者ケアの実践のための教育、研究に取り組み、学内での教育と臨地実習での実習指導に一貫性をもたせることができるよう努力している。その取り組みの実践報告はしているが、具体的な教育手法を導き出す段階までにはまだ到達していない。

平成 22 年度より、岐阜大学活性化経費の助成を受け、老年看護学分野として「認知症がある高齢入院高齢患者のケア」に関する研究に取り組み、平成 23 年度には、他施設の協力も得て、少しずつ活動を拡大している。しかし、平成 23 年度には教員構成が大きく変化し、教育内容・方法の調整等に翻弄し、研究活動ができる環境を整えるまでには至らなかった。

現状の問題点及びその対応策

老年看護学分野の臨地実習は 4 年生の前期に 2 単位、3 年生の後期に 2 単位計画しており、年間をとおして実習が行われている状況である。また、実習施設が大学よりは遠方にあるために、研究時間の獲得が困難な状況が継続している。次のカリキュラム改正時にこのあたりの問題を解消するため、時期的な修正は行ったが、それに伴う教育内容の精選・方法に関する検討はまだ十分ではなく、課題は多い。

平成 22 年度より競争的外部資金を得て、「認知症がある高齢入院高齢患者のケア」に関する研究に取り組んでいるが、研究としてまとめるには、倫理面や妥当性・信頼性等の課題も多く、成果発表まで至っていない。各年度で、分野としての取り組みを地域へも公表しつつ、共同研究の場を拡大し、その成果を発表していくよう努力していきたい。

今後の展望

超高齢社会の中では、高齢者自身に関することやケアに関することなど、医療・福祉における課題は多い。専門職を対象とした教育・研究だけでは解決することではない。小・中学生を含む一般の人々に高齢者に関する啓蒙を図ることも必要である。その内容を精選し、方法についての研究を推進する必要もある。

平成21年度から大学院医学系研究科看護学専攻、地域健康援助学分野に老年看護学の修士課程が開かれ、3名の学生が在籍している。今後は、大学院の院生の研究を含め、高齢者自身、高齢者の健康問題と直接関わるケア実践者に関連する研究を進め、成果発表の機会も増やしていきたい。

〔地域・精神看護学講座〕

(1) 地域看護学分野

1. 研究の概要

地域看護学分野においては、地域保健、産業保健、学校保健等の公衆衛生分野における研究と訪問看護に関する在宅医療分野の研究がおこなわれている。いずれの研究も、現場の課題に着目した研究テーマが多く、その成果は、公衆衛生や在宅看護の現場に還元されるものである。研究方法は、広く公衆衛生学・疫学及び看護学の研究手法を用いている研究が多い。具体的な研究テーマとしては、最近の公衆衛生分野の関心事である禁煙に関するもの、例えば地域における禁煙教育の介入効果を把握する研究を始め、地域保健活動に関する研究、保健師とその活動に関する研究、訪問看護ステーションの管理運営に関する研究、高齢者の虐待予防、学童へ的高齢者虐待予防教育に関する研究など多岐にわたっている。対象者も保健師や看護師など専門職を対象とした調査、地域住民としての子どもとその両親、高齢者、学生などさまざまな年齢層を対象としている。

このように、地域看護学分野における研究は、あらゆる年代の人々を対象として、健康増進から疾病予防、社会復帰にいたる多様な健康レベルの人々とそれに係る公衆衛生分野の専門職に関する研究など、多彩な研究がなされている。

<主な研究テーマ>

- 1) 職域における健康管理に関する研究
- 2) 高齢者虐待予防に関する研究
- 3) 青少年の喫煙・飲酒・薬物乱用とライフスタイルの関連性についての研究
- 4) 保健師教育、新人保健師の育成に関する研究
- 5) 訪問看護ステーションの経営効率化に関する研究
- 6) 地域における禁煙教育に関する研究
- 7) 訪問看護師のリスクマネジメントに関する研究

2. 名簿

教授：	後閑容子	Yoko Gokan
准教授：	石原多佳子	Takako Ishihara
准教授：	若杉里美	Satomi Wakasugi
准教授：	三好美浩	Yoshihiro Miyoshi
助教：	瀬瀬朋弥	Tomomi Kouketsu
助教：	玉置真理子	Mariko Tamaoki

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 牧野茂徳. 第3節 特殊健康診断について:岐阜県大学保健管理研究会編. 大学生の健康ナビ キャンパスライフの健康管理, 岐阜:岐阜新聞社; 2009年: 15-19.
- 2) 牧野茂徳, 他. クエスチョン・バンク保健師国家試験問題解説 2010, 東京:メヂクメディア; 2009年.
- 3) 玉置真理子. 宮嶋淳他編著. 子どもの豊かな育ちへのまなざしーからだの健康観察ー 京都:久美株式会社; 2010年: 85-89.
- 4) 石原多佳子. 宮嶋淳他編著. 子どもの豊かな育ちへのまなざしー健康の概念ー, 京都:久美株式会社; 2010年: 82-85.
- 5) 石原多佳子. 荒賀直子, 後閑容子編著. 公衆衛生看護学.jp ー障害者(児)保健活動ー, ー歯科保健活動ー, 東京:インターメディカル; 2011年: 327-343, 395-402.
- 6) 若杉里美. 地域保健活動のツールー健康相談ー:荒賀直子, 後閑容子編. 第3版公衆衛生看護学.jp, 東京:インターメディカル; 2011年: 199-210.
- 7) 三好美浩, 勝野眞吾, 鬼頭英明, 吉本佐雅子, 西岡伸紀. 性別, 年齢集団, アルバイト経験による大学生における喫煙・飲酒・薬物乱用リスクの低位集団差ー2007年 JYPAD の結果ー, 学校保健研究 2011年; 53巻: 10-22.
- 8) 後閑容子, 荒賀直子編著. 第3版公衆衛生看護学.Jp, 東京:インターメディカル; 2011年

著書（欧文）

なし

総説（和文）

なし

総説（欧文）

なし

原著（和文）

- 1) 安田恭子, 若杉里実, 榊原國城. 大学生活への満足度に及ぼす教育・指導体制の影響, 愛知淑徳大学現代社会研究科研究報告 2009年; 4号: 17-26.
- 2) 若杉里実, 坂本真理子. 地域看護過程演習の学びのプロセスとその効果, 日本看護学教育学会誌 2010年; 20巻: 15-23.
- 3) 瀧瀬朋弥, 松田宣子. 出産後の喫煙行動と関連要因, 日本公衆衛生雑誌 2010年; 57巻: 104-112.
- 4) 多田敏子, 後閑容子, 鈴木るり子. 保健師教育拡充に向けた教育体制に関する調査, 地域保健 2010年; 41巻: 58-66.
- 5) 杉浦浩子, 中島美奈子, 伊藤育子, 桑田弘美, 箕浦とき子, 後閑容子. 岐阜大学医学部看護学科卒業生の動向および勤務状況の実態, 岐阜大学医学部紀要 2010年; 56巻: 1-8.
- 6) 水野かがみ, 石原多佳子, 本田広国, 水野敏明, 大森正英. 高齢者の健康寿命に関する研究—地域高齢者の健康状態と活動能力, 中部学院大学・中部学院大学短期大学部研究紀要 2010年; 3巻: 7-43.
- 7) 表志津子, 佐伯和子, 石原多佳子. 看護職の介護支援専門員が認識する高齢者虐待事例マネジメントへの困難性と対処, 日本老年看護学会誌 2010年; 14巻: 60-67.
- 8) 若杉里実, 安田貴恵子. 新任保健師1年目の体験—母子保健事業での住民との関わりに焦点を当てて—, 日本地域看護学会誌 2011年; 13巻: 61-68.
- 9) 三好美浩, 勝野眞吾, 鬼頭英明, 吉本佐雅子, 西岡伸紀. 性別, 年齢集団, アルバイト経験による大学生における喫煙・飲酒・薬物乱用リスクの下位集団差—2007年 JYPAD の結果—, 学校保健研 2011年; 53巻: 10-22.

原著（欧文）

なし

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者: 瀧瀬朋弥; 科学研究費補助金若手研究(スタートアップ): 産後の再喫煙防止を目的とした禁煙サポート方法の検討—夫の喫煙行動に焦点を当てて—; 平成 20-21 年度; 3,107 千円(1,742 : 1,365 千円)
- 2) 研究代表者: 榊原國城, 研究分担者: 安田恭子, 若杉里実; 愛知淑徳大学学術研究振興資金: 大学卒業後のキャリア発達に及ぼす大学教育の効果; 平成 22-23 年度; 2,000 千円(1,425 : 575 千円)
- 3) 研究代表者: 瀧瀬朋弥, 研究分担者: 後閑容子, 石原多佳子, 玉置真理子; 科学研究費補助金基盤研究(C): 地域で行う妊産婦とパートナーを対象とした禁煙サポートプログラムの開発; 平成 22-25 年度; 4,000 千円(1,340 : 970 : 650 : 1,040 千円)
- 4) 研究代表者: 玉置真理子, 科学研究費補助金若手研究(B): 地域保健活動のアウトソーシングが及ぼした行政保健師への影響; 平成 20-22 年度; 359 千円(169 : 100 : 90 千円)
- 5) 研究代表者: 後閑容子, 研究分担者: 石原多佳子, 玉置真理子; 科学研究費補助金基盤研究(C): 行政変革時の保健師の役割再構築—Transition 理論を用いた縦断的研究; 平成 22 年度; 1,500 千円
- 6) 研究代表者: 後閑容子, 研究分担者: 石原多佳子, 玉置真理子, 瀧瀬朋弥; 経済産業省, 医療, 介護等関連分野における規制改革, 産業創出調査研究事業, IT 活用による介護事業者の経営効率化・安定化に資する調査; 平成 22 年度; 2,997 千円
- 7) 研究代表者: 石原多佳子, 研究分担者: 後閑容子, 表志津子, 玉置真理子, 石原敏秀; 科学研究費補助金挑戦的萌芽研究: 住民協働による学童期からの高齢者虐待一次予防プログラムの開発; 平成 22 年度; 1,100 千円
- 8) 研究代表者: 榊原國城, 研究分担者: 安田恭子, 若杉里実; 愛知淑徳大学学術研究振興資金: 大学卒業後のキャリア発達に及ぼす大学教育の効果; 平成 22-23 年度; 2,000 千円(1,425 : 575 千円)
- 9) 研究代表者: 若杉里実; 科学研究費補助金基盤研究(C): ポートフォリオを活用した新任保健師の個人・家族支援実践能力の育成; 平成 23-25 年度; 1,560 千円(130 : 780 : 650 千円)
- 10) 研究代表者: 三好美浩; 科学研究費補助金研究活動スタート支援: 青少年のライフスタイルを評価する筆問項目のための疫学的調査研究; 平成 23-24 年度; 2,400 千円(1,400 : 1,000 千円)
- 11) 研究代表者: 勝野眞吾, 研究分担者: 鬼頭英明, 西岡伸紀, 三好美浩; 科学研究費補助金基盤研究(B): 青少年の薬物乱用に関するモニタリングとデータアーカイブ構築; 平成 21-24 年度; 450 千円(平

成 23 年度分担金)

- 12) 研究代表者：後閑容子；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：訪問看護における地域リスクマネジメントネットワーク構築に関する研究；平成 23—25 年度；5,200 千円(1,300：2,080：1,820 千円)

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

牧野茂徳：

- 1) 日本産業衛生学会代議員(～現在)
- 2) 日本産業衛生学会東海地方会理事(～現在)
- 3) 日本衛生学会評議員(～現在)
- 4) 日本民族衛生学会評議員(～現在)

後閑容子：

- 1) 民族衛生学学会評議員(～現在)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

三好美浩：

- 1) 日本学校保健学会奨励賞受賞講演(平成 23 年 11 月)

後閑容子：

- 1) 第 70 回日本公衆衛生学会総会座長(平成 23 年 10 月)

8. 学術賞等の受賞状況

- 1) 瀨瀨朋弥：日本公衆衛生学会総会優秀ポスター賞(平成 21 年)
- 2) 三好美浩：日本学校保健学会奨励賞(平成 23 年)

9. 社会活動

牧野茂徳：

- 1) 「ヘルスプランぎふ 21」推進会議委員(～現在)
- 2) 「ヘルスプランぎふ 21」推進会議地域・職域連携推進部会座長(～現在)
- 3) 岐阜産業保健推進センター産業保健相談員産業医学(～現在)
- 4) 東京都産業保健健康診断機関連絡協議会アドバイザー(～現在)

後閑容子：

- 1) 岐阜県看護協会認定看護師制度セカンドレベル・ファーストレベル教育課程委員会委員長(～現在)

石原多佳子：

- 1) 滋賀県米原市地域包括支援センター運営協議会委員(～現在)

2) 滋賀県米原市高齢者虐待防止ネットワーク会議委員(～現在)

10. 報告書

- 1) 牧野茂徳, 岩田弘敏, 後閑容子, 石原多佳子, 玉置真理子: 岐阜県における過重労働による健康障害予防対策に関する調査研究: 平成 20 年度産業保健調査研究報告書: 1-34(平成 21 年 3 月)
- 2) 牧野茂徳, 岩田弘敏, 森河裕子, 城戸照彦, 廣橋廣次, 中川秀昭, 後閑容子, 石原多佳子, 玉置真理子, 鈴木克司, 角森洋子: 過重労働による健康障害予防対策に関する調査研究(共同研究): 平成 20 年度産業保健調査研究報告書: 1-29(平成 21 年 3 月)
- 3) 後閑容子, 石原多佳子, 玉置真理子, 瀧瀬朋弥: IT 活用等における介護事業者の経営効率化, 安定化に資する調査 平成 22 年度研究報告書(経済産業省平成 22 年度医療・介護等関連分野における規制改革・産業創出調査研究事業)(平成 23 年 2 月)

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

看護学科の運営に係る諸活動, 地域看護学分野における教育活動を中心にして, 教育及び研究に充実した活動ができたと評価する。特に, 教育活動においては, 研究者の研究活動の成果が着実に反映されていると考えられる。訪問看護ステーションとの協働研究, 市町村保健師への活動協力など, 地域看護学分野の研究の特性を生かした研究活動が行われてきたことは評価に値する。

現状の問題点及びその対応策

研究活動においては, 研究成果を論文として公表することをさらに努力したいと考える。公衆衛生や訪問看護など実践を基盤とした研究を今後も展開したいと考える。

教育活動に関しては, 公衆衛生看護学と在宅看護学野における講義, 演習, さらに実習と多くの授業科目を有する分野である。今後, 平成 24 年度から実施される新しい教育課程の実践に向けて検討をしていきたい。

今後の展望

教員各自が研究テーマをもって, 積極的に研究に取り組むこと, 加えて地域看護学分野としての共通した研究課題をもって, 研究活動をさらに活発化したい。

今後, 教育活動において, 公衆衛生看護学の実習展開の具体的方法を検討することが課題として考えられる。

(2) 精神看護学分野

1. 研究の概要

精神看護学は、社会におけるメンタルヘルスについての諸問題および個々の健康障害を持つ人々に対する看護アプローチの方法を探究する分野であると考えている。こころの働きと日常生活との関連に焦点を当てた精神看護の視点から、こころの健康、健康障害について考察するとともに、心身を病む人々への精神看護学の概念モデルおよび方法論、技術論の実証的な研究を目指している。

研究テーマとしては、精神機能の障害のために「生活能力」や「対人関係能力」に困難を抱える対象への援助を中心とした内容、広く現代の社会病理に関連したメンタルヘルスの問題、ストレスコーピングやコミュニケーション技術などに関する研究を行っている。

看護教育という点では、これらの研究が、学生の「対人関係を構築し維持する能力の向上」と「人間を深く理解していく力の向上」を意図し、人間的交流に基づいた丁寧な観察や個人の特性を踏まえて、そこで起こる現象を把握し、効果的なケアを追求する研究に取り組んでいる。また、大学院に関する内容としては、社会文化的な側面を踏まえて、研究対象者の地域性や臨床の特性を鑑み、看護師としてケア実践能力に繋がるような研究を行っている。

2. 名簿

教授：	奥村太志	Hutoshi Okumura
准教授：	杉浦浩子	Hiroko Sugiura
助教：	大平幸子	Sachiko Ohira

3. 研究成果の発表

著書（和文）
なし

著書（欧文）
なし

総説（和文）

- 1) 奥村太志, 杉浦浩子, 三品弘司. 精神保健看護辞典 第1版, 2010年.
- 2) 奥村太志. 子供の豊かな育ちへのまなざし—スクールソーシャルワーク実践ガイド—, 2010年: 68—73.

総説（欧文）
なし

原著（和文）

- 1) 乙村 優, 奥村太志. 入退院を繰り返すうつ病患者の理解と看護についての考察, 第39回日本看護学会論文集 精神看護 2009年: 134—136.
- 2) 乙村 優, 奥村太志, 佐川和代, 渡辺信成. 精神科デイケアを利用する統合失調症者の音楽療法の体験, 日本精神科看護学会誌 2009年; 52巻: 366—370.
- 3) 杉浦浩子, 三品弘司, 奥村太志. 紙上事例を用いて分析した看護師のコミュニケーションの傾向, 岐阜看護研究会誌 2009年; 1号: 93—98.
- 4) 伊藤育子, 杉浦浩子, 中島美奈子, 桑田弘美, 箕浦とき子, 後閑容子. 卒業生による大学生活の評価, 岐阜看護研究会誌 2009年; 1号: 87—92.
- 5) 三品弘司, 奥村太志, 杉浦浩子, 永井邦芳. 精神科デイケアにおける機能分化に関する一考察, 岐阜県看護研究会誌 2010年; 2号: 49—53.
- 6) 三品弘司, 奥村太志, 杉浦浩子, 永井邦芳. 精神科デイケアにおける通所者のニーズ把握と効果判定に関する研究, 岐阜県看護研究会誌 2010年; 2号: 55—58.
- 7) 乙村 優, 奥村太志: 入院初期のうつ病患者に対する看護の検討, 日本精神科看護学会誌 2010年; 5巻: 37—41.
- 8) 加藤可子, 安藤恵美子, 北原美穂, 林やよい, 杉浦浩子. 外科手術を受けた患者の退院決定に影響する要因の検討—患者と家族員の退院に対する思いの比較から—, 第41回日本看護学会論文集 成人看護II 2010年; 262—264.
- 9) 杉浦浩子, 中島美奈子, 伊藤郁子, 桑田博美, 箕浦とき子, 後閑容子. 岐阜大学医学部看護学科卒業生の動向および勤務状況の実態, 岐阜大学医学部紀要 2010年; 56巻: 1—8.
- 10) 奥村太志, 杉浦浩子, 三品弘司, 石黒千映子, 永井邦芳, 乙村 優, 渋谷菜穂子. 幻聴を主訴とする統合失調症患者の理解とケア—看護における現象学的接近, 岐阜看護研究会誌 2010年; 2号: 41—48.
- 11) 三品弘司, 杉浦浩子, 奥村太志. 精神看護学実習におけるコミュニケーションの学び, 岐阜看護研究会誌 2011年; 3号: 37—42.

- 12) 杉浦浩子, 三品弘司, 奥村太志. 对患者コミュニケーション場面における看護師の情報受信・処理プロセス, 岐阜看護研究会誌 2011年;3号:43-48.
- 13) 水野きよみ, 岩田明子, 小林浩子, 松橋恵美, 山内博文, 奥村太志. 境界型人格障害患者の事例を通して一患者の問題行動への介入経過からの気づき一, 日本精神科看護学会誌 2011年;54巻:86-89.
- 14) 宮地和美, 尾崎奈美子, 奥村太志. 無為自閉の患者に対する患者参加型カンファレンスの活用, 日本精神科看護学会誌 2011年;54巻:90-94.
- 15) 乙村 優, 奥村太志, 佐川和代. 地域で生活する精神障がい者を支える音楽療法の試み一精神障害者社会復帰支援施設における精神障がい者の現状と看護への活用について一, 日本精神科看護学会誌 2011年;54巻:162-166.

原著 (欧文)

なし

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 代表者: 杉浦浩子; 大学活性化経費(教育): 自己学習力を強化する学習プログラムの構築; 平成 22年度; 470 千円

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

なし

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

奥村太志:

- 1) 日本精神科看護学会第 18 回専門学会Ⅱ(平成 23 年 12 月, 岐阜, ランチョンセミナー「睡眠から統合失調症患者さんの QOL(生活の質)向上を考える」座長)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

なし

10. 報告書

なし

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

看護学科の運営や新カリキュラム申請など将来に向けての諸活動、精神看護学に関連する教育・研究活動を中心において、充実した活動を行うことができた。中でも、分野として目指してきた実践的研究は、臨床との共同研究として徐々に成果を上げつつある。教育に関しては、学部生や大学院生の研究指導も多岐にわたり、小分野としては数多くの修士論文指導に携わり、完成まで導いたことは評価できる。また、精神看護学に興味・関心を示す学生も数多く、毎年、卒業研究はじめ就職先に精神分野を第一希望とする学生が増えていることから評価できる。

現状の問題点及びその対応策

小分野で人員が少ない状況にありながら、看護学科内の運営や役割の割合が多いこと、実習など教育に投じる時間が多いことにより、研究時間の確保が難しい状況にある。現在は、個々に時間を調整して研究を進めている。しかし、競争的資金の獲得が少なく、これは分野として取り組んでいる研究課題がないことも要因であると考え。今後はこれまで以上に効率性と研究の質を高めるために、分野全体としての研究課題を持ち、研究体制づくりを図りたい。

今後の展望

現在行っている臨床との共同研究をさらに発展させるとともに、分野としての研究課題を持ち、精力的に研究活動をおこなっていききたい。